

FACULTY OF MEDICINE SHIMANE UNIVERSITY
COMMUNITY MEDICINE MANAGEMENT

ANNUAL REPORT

令和元年度

島根大学部医学部
地域医療支援学講座

報告書



DEPARTMENT OF COMMUNITY MEDICINE MANAGEMENT



目次 CONTENTS

ごあいさつ	02
 地域医療支援学講座メンバー紹介	04
 講座紹介	05
 1年間のあゆみ	06
1 学生教育	06
2 学生支援等	17
3 教育FD	31
4 地域医療交流サロンの取り組み	32
5 地域医療支援等	35
6 地域医療支援コーディネータ等への支援	38
7 ホームページ・広報誌等による情報発信	39
8 総合診療専門医育成ネットワークの取り組み	42
9 ワークライフバランス	48
 業績	54
 写真で見る1年間	57
おわりに	66

FACULTY OF MEDICINE SHIMANE UNIVERSITY





ごあいさつ

MESSAGE

島根大学医学部長 鬼形 和道

地域医療支援学講座の活動にご理解そしてご支援賜り、誠にありがとうございます。
平成31年度(令和元年度)の報告書を作成しましたので、皆さまにお届けいたします。
谷口栄作教授を引き継いだ佐野千晶教授の下、新たな地域医療支援学講座の活動が開始されました。谷口先生の下で、多岐にわたる活動を展開してこられた佐野先生の活躍を応援したいと存じます。

地域医療への貢献は島根大学医学部の大切なミッションのひとつです。本講座の使命は、地域医療に関わる若手医師の育成とともに、彼らを島根県に定着させ、同時に彼らのキャリア形成を支援することです。医師に求められる資質として、「知識」や「問題対応能力」とともに「プロフェッショナリズム」および「コミュニケーション能力」が必須となっています。医学部では、医療の現場で自分自身を表現でき、指導者あるいは教育者となれる人材の育成を推進しています。このためには、本講座および附属病院との密接な連携が必須と考えています。

この報告書をご覧ください、本講座の取り組みにご意見あるいはご提案をいただければ幸いです。そして、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



新任ごあいさつ

MESSAGE

地域医療支援学講座 教授 佐野 千晶

この度、改元の令和元年5月1日の1カ月前にあたる平成31年4月1日付で、島根大学医学部地域医療支援学講座教授を拝命しました佐野千晶と申します。地域医療支援学講座は、平成22年設立の島根県の寄附講座であり、令和2年4月には10周年の節目を迎えます。

これまで、前任教授の谷口栄作先生を中心として、「地域医療に興味を持ち、地域医療へのモチベーションを膨らませながら、医師としてのキャリアアップと県内の医療機関で安心して働ける環境づくりを支援する」ために、学内の関係部署や学外の関係機関等と連携しながら、さまざまな取り組みを行ってきました。

特に、学生教育では1年次への「地域医療学」講義、「早期体験実習」、3年次では「講座配属」、5年次、6年次では臨床実習としての学内実習や学外で地域医療実習を行っています。また、春季夏季地域医療実習の振り返りの会に関わっています。地域卒等の学生に対しては、個別面談、学年別集会、全体集会等を行い、さらに市町村の協力により、出身地域毎に地域別集会を開催し、学生と色々な形で交流を行い、地域医療へのモチベーション向上を目指して取り組んできました。また卒業後は、地域卒医師等を中心に、しまね地域医療支援センターとの連携を図りながら個別面談等キャリア支援を行っています。更に研究分野では、医療人材育成に関する研究、地域保健医療福祉に関する研究、救急救命教育に関する研究等、当講座のミッションに関係する分野を中心に幅広く行い、学会や学会誌などで発表しました。地域医療を守り育てようとする住民組織の交流の場、学びの場としてのワークショップ、また地域医療に関する支援を行っており、地域医療は医療従事者だけでなく、地域全体で支えていくものだという認識が、少しずつ浸透してきています。

これらの取り組みは、学内関係者をはじめ、島根県、市町村、県内医療機関、さらには全国の多くの皆様のご支援をいただきながら、徐々に積み上げてきたものです。

今後も、地域医療支援学講座は与えられたミッションに基づき、島根県の地域医療の発展に、関係者の皆様とともに頑張っていこうと考えておりますので、前任者同様に、引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。



地域医療支援学講座 メンバー紹介



教 員

教 授	佐 野 千 晶	平成28年3月～ 准教授 平成31年4月～ 教授
助 教	布 野 慶 人	平成29年4月～
特任助教	宅 野 真由美	平成31年4月～



事務職員

事務補佐員	澤 田 悠 里	平成29年12月～令和2年3月
事務補佐員	錦 織 由 茉	平成30年6月～令和元年6月
事務補佐員	山 部 清 子	平成31年4月～
事務補佐員	杉 原 眞 司	令和元年8月～



講座紹介

当講座は、地域医療教育学講座、地域医療政策学講座、総合医療学講座、卒後臨床研修センター、各診療科等の学内組織、そして島根県や市町村、しまね地域医療支援センター、地域医療機関等学外の関係機関と連携を図りながら、「学生が、地域医療に興味を持ち、地域医療へのモチベーションを膨らませるため、また医師としてのキャリアアップと県内で安心して働ける環境づくりを支援する」ために、以下の様な取り組みに関わっています。

1 医学科学生教育

《学生教育》

- 1年生：①早期体験実習【必修】 ②講義：地域医療学【必修】
- 3年生：講座配属
- 4年生：男女共同参画講義（キャリア教育）
- 5年生：①臨床実習（地域医療・総合医療）【必修】 ②臨床実習（地域医療実習）【必修】
- 6年生：臨床実習（地域医療実習）【選択】
- 1年～6年夏期・春期休暇期間：夏季・春季地域医療実習（地域医療体験実習Ⅰ）【自由】
- 1年～6年通年 必修科目時間外：フレキシブル実習（地域医療体験実習Ⅱ）【自由】

《学生支援》

地域医療セミナー：学外講師招聘（年10回程度）
ランチョンセミナー：学内講師招聘（年10回程度）
ビデオセミナー（毎週）、総合診療ワークショップ（年2回）、
学生面談、学生と地域との交流支援、地域医療交流サロンの取り組み 等

2 医師のキャリア支援活動

地域枠医師、奨学金貸与医師、その他希望者を対象にしたキャリア支援
総合診療医育成支援、しまね地域医療支援センター理事及び専任医師（教授）
Iターンを含む県内医師のキャリア支援

3 地域医療支援

地域医療システムマネジメント支援、ワークライフバランス支援（復職支援を含む）
地域医療を支える住民活動支援、地域医療コーディネータ支援、地域医療研究会支援



1年間のあゆみ

1 学生教育

1) 早期体験実習

平成25年から1年次の9月に早期体験実習を島根大学医学部附属病院で行っている。1年生という早い学年から医療の現場に触れると同時に、5年生や6年生が臨床実習を行っている姿を見ることで教養や基礎医学へのモチベーションを上げることを目的にしている。

①事前学習

医の倫理、マナーコミュニケーション、医療安全・感染対策、個人情報保護、医療情報検索

②医療体験実習

附属病院各診療科での実習、BLS

③報告会

実習グループによるグループワークと発表会

2) 地域医療学

平成28年度から医学科1年生を対象にした地域医療学の授業が開講になった。この授業は、地域医療教育学と当講座が共同でコーディネートしている。

内容は、学内の教員や県内で精力的に取り組んでいる外部講師が地域医療について、中山間地、離島の状況、多職種連携、地域住民・患者の立場から、行政や社会情勢、公衆衛生、海外での医療貢献、災害医療、医学史等様々な角度から講義を行う。

令和元年度 地域医療学 授業日程表

回	月日	時間	場所	授業内容	担当
1	10. 4 (金)	13:00~14:40	N11	地域医療とは	佐野
2	10.11 (金)	〃	L3	離島の地域医療	白石
3	10.25 (金)	〃	〃	中山間地の地域医療 I	長坂
5	11. 1 (金)	〃	〃	中山間地の地域医療 II	阿部
4	11. 8 (金)	〃	〃	市街地の地域医療	杉浦
6	11.15 (金)	〃	〃	多職種連携 I	熊倉・佐野
7	11.22 (金)	〃	〃	多職種連携 II	熊倉・佐野
8	11.29 (金)	〃	〃	公衆衛生行政と地域医療	村下
9	12. 6 (金)	〃	〃	地域包括ケア	谷口
10	12.13 (金)	〃	〃	高齢社会と地域医療	杉谷
11	12.20 (金)	〃	〃	我が国の救急医療体制	布野
12	12.27 (金)	〃	〃	ネパールでの医療貢献：その限界と将来	森
13	1.10 (金)	〃	〃	災害医療	渡部
14	1.24 (金)	〃	〃	医学史－華岡流外科の普及と近代医学	梶谷



地域医療学
 1年間のあゆみ
 卒業まで
 卒業まで



3) 講座配属

島根大学医学部では3年次に、医学生自ら希望する講座で研究参加や臨床見学等を行うことができる講座配属を実施している。当講座は今年度4名の医学生を受け入れ、出雲地域の病病連携、病診連携、医療看護連携、医療福祉連携等の課題と解決方策を学ぶとともに1次救命措置等の実習を行った。

【日 時】 前半：令和元年9月25日(水)～10月28日(月)

【参加者】 島根大学医学部医学科3年生 計2名

【日 時】 後半：令和元年10月30日(水)～11月27日(水)

【参加者】 島根大学医学部医学科3年生 計2名

【内 容】 医療福祉連携マネジメントプログラム
医療政策・感染症管理プログラム
消防施設見学・実習
医療政策・結核管理



【指導方針】

- ・ 出雲の地域医療の現状を通じて、日本の地域医療の現状を学ぶ。
- ・ 出雲地域の病病連携、病診連携、医療看護連携、医療福祉連携等の課題と解決法策を学ぶ。
- ・ 出雲市内の消防施設を見学するとともに、1次救命措置等の実習を行う。
- ・ 医学教育、地域医療教育に関する調査や分析に参加する。

【協力施設】

出雲保健所、出雲市民リハビリテーション病院、深田医院、すぎうら医院、出雲市消防本部、島根大学医学部附属病院ほっとサロン、島根大学医学部附属病院地域医療連携センター、在宅診療所いずも、島根県看護協会訪問看護ステーションいずも（順不同）

4) 男女共同参画講義（キャリア教育）

4年次を対象とし、5コマの男女共同参画講義（キャリア教育）を行っている。本講義は島根県医師会と連携しながら実施している。

【日 時】 令和2年2月27日（木）9：40～15：45

【場 所】 臨床大講堂

【参加者】 医学部医学科4年生

【内 容】 ①「キャリアについて考える」

グループワークテーマ「妻の海外留学について」

【まとめの講義】 広島大学医学部附属医学教育センター 教授 蓮沼 直子 先生

②キャリアモデルの紹介

島根大学医学部 消化器内科 助教 沖本 英子 先生

島根大学医学部 腎臓内科 科長・講師 伊藤 孝史 先生

島根大学医学部 器官病理学 講師 荒木 亜寿香 先生

③島根大学男女共同参画の取り組み

島根大学学長特別補佐（男女共同参画担当）河野 美江 先生

④島根県「えんネット」の取り組み

島根大学医学部地域医療支援学講座 教授 佐野 千晶

【医師会講演会】

「ダイバーシティ2.0世代の医師のキャリアを考える」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療人材育成講座 教授 片岡 仁美 先生

5) 臨床実習（地域医療・総合医療）

平成24年度より、地域医療教育学講座、総合医療学講座、地域医療政策学講座、卒後臨床研修センターと当講座の教員により、プライマリ・ケアに必要な能力を習得するために5年次の臨床実習の一部を担当している。

当講座では最初のオリエンテーションに続いて、地域医療連携演習として、病診連携・病病連携、医療介護連携、医療と関係施設との連携について、ケースメソッドによる教育を行っている。1週間の総括についても、分担して担当している。



1年間のあゆみ

■令和元年度 典型的スケジュール

午 前					午 後				
	集合		担当教員	学生	集合		担当教員	学生	
月	9:00	オリエンテーション 地域医療演習 【みらい棟 1F みらいラウンジ】	佐野 地域医療 支援学	全員	13:30	臨床推論 【みらい棟 1F みらいラウンジ】	鬼形 卒後臨床研 修センター	全員	
火	8:20	どれみクリニック 基常小児科実習 (2名)	羽根田	○○ ××	16:00 ※11月 ~2月 17:00	医療面接(英語) 【みらい棟 2F 総合 医療学講座 会議室】	木島 総合医療学 マルガリータ スウェーデン・ ルンド大学		
	8:30	家庭医医療実習 (出雲市民病院 1F受付) (2名) 昼食有 <13:30終了予定>	高橋	●● ◎◎	14:00	総合医療学実習 (シミュレータ実習) 【スキルアップ センター】	山形 大田総合医 育成センター	全員	
水	7:30	早朝セミナー 【みらい棟 1F 初期研修医室】	石橋・鬼形	全員		乙立診療所実習 (2名)	内科学第一 教員	○○ ××	
	8:30	臨床推論講義 【みらい棟 2F 総合医療学講座会議室】	鬼形 卒後臨 床研修センター Douglas.S. Paauw アメリ カワシントン大学	全員	14:00	わたなべこども レディース クリニック実習 (3名)	渡辺	△△ ■ ★★	
	10:00	総合診療外来実習 (2名) 【附属病院 1F 外科外来】	石橋 総合医療学	○○ ××	14:00	乙立診療所実習 (2名)	内科学第二 教員	○○ ××	
木	9:30	総合医療学実習 (シミュレータ実習) 【スキルアップ センター】	山口 大田総合医 育成センター	全員	13:30	総合医療学実習 (シミュレータ実習) 【医療技術訓練室 スキルアップ センター】	黒河内 大田総合医 育成センター	上記 2名 以外	
金	別表 参照	診療所実習 (各1名)			14:00	乙立診療所実習 (2名:16:30終了)	内科学第一 第三 教員	○○ ××	
		すぎうら医院	杉浦	1人	14:00	総合医療学実習 (シミュレータ実習) 【スキルアップ センター】	本田 大田総合医 育成センター	上記 2名 以外	
		手納医院	手納	1人					
		在宅診療所いずも	宮本	1人	17:00	総括(大学にて) 【みらい棟 1F みらいラウンジ】	担当教員	全員	
		遠藤クリニック	遠藤	1人					
		ホームクリニック暖	奥野	1人					

6) 臨床実習（地域医療実習）

プライマリ・ケアの近接性、包括性、継続性、協調性、責任性を特色とする地域医療実習は、大学病院では経験できない様々な医療の側面を学習する。医療全体を見渡すことができる広い視点を養い、医療の本質に対する理解を深めることを目的としている。これは島根大学医学部の理念である「地域に貢献する医師の養成」を具現化した教育の一環でもある。

5年生の必修地域医療実習（8月～11月）は、県内中山間地を中心とした30の医療機関に協力して頂き、5～6人20グループに分かれて2週間の臨床実習を行う。

6年生は選択地域医療実習（4月～11月）として、前述の医療機関に松江出雲圏域の12施設を加えた42の医療施設に協力を頂き、4週間を基本としながら調整し臨床実習を行う。また、平成26年度より7圏域の保健所を地域医療実習機関に加え、地域保健に関心がある学生の実習を受け入れている。

■令和元年度5年生地域医療実習病院説明会

【対 象】 5年生全員

【日 時】 令和元年6月17日（月）16：30～19：00

【場 所】 臨床大講堂

【説明会参加施設】 15施設

地 区	施 設 名
安 来	安来第一病院
松 江	玉造病院
出 雲	出雲徳洲会病院
雲 南	町立奥出雲病院 雲南市立病院 飯南病院
大 田	邑智病院 大田市立病院 加藤病院
江 津	西部島根医療センター 江津総合病院
浜 田	浜田市国保診療所連合体 浜田医療センター
益 田	松本医院 益田赤十字病院



■令和元年度地域医療実習教育連絡会

令和元年度島根大学医学部地域医療教育連絡会が、8地区（安来・松江・出雲・雲南・大田・浜田・益田・隠岐）で開催され、下表の4地区に教授が学務課担当者と共に出席した。地域医療実習の課題及び解決策について説明を行い、令和元年度島根大学医学部地域医療実習について、学生・自己・指導医評価及び医療機関別学生・指導医のコメントと実習評価分析結果及び実習終了後のアンケート結果について報告し意見交換を行った。また、令和2年度地域医療実習に向けて日程案と実習計画を立てる際の基本的な考え方等について説明を行い情報及び意見交換を行った。

令和元年度地域医療教育連絡会

地区	連絡会参加施設	日 時	会 場
浜田	済生会江津総合病院	10月29日（火） 18：00～	浜田医療センター 2階 会議室②
	西部島根医療福祉センター		
	独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター		
	浜田市国保診療所連合体あさひ診療所		
	浜田市国保診療所連合体波佐診療所		
	浜田市国保診療所連合体弥栄診療所		
	社会医療法人清和会 西川病院		
大田	社会医医療法人仁寿会 加藤病院	11月11日（月） 18：00～	大田市立病院 2階 応接室
	大田市立病院		
	邑智郡公立病院組合 公立邑智病院		
安来	安来市立病院	11月19日（火） 18：00～	安来第一病院 研修室
	日立記念病院		
	社会医療法人昌林会安来第一病院		
雲南	医療法人社団信愛会永生クリニック	11月26日（火） 18：00～	サンワーク木次 音楽練習室
	医療法人陶朋会平成記念病院		
	飯南町立飯南病院		
	奥出雲町立奥出雲病院		
	雲南市立病院		

7) 夏季・春季地域医療実習（地域医療体験実習Ⅰ）

島根大学医学部では島根県と連携して、地域の医療機関での活動や連携を体験・学習し、地域医療や公衆衛生業務に対する理解を深めることを目的とする春季・夏季地域医療実習を行っている。

■令和元年度夏季地域医療実習

【期 間】 令和元年 8月19日（月）～ 23日（金） ※23日は意見交換会

実施期間	地 区 等	日 程	参加人数
松江保健所	松江	8月19日（月）、20日（月）、22日（水）	2
雲南保健所	雲南	8月20日（火）～ 22日（木）	7
出雲保健所	出雲	8月19日（月）～ 21日（水）	2
県央保健所	県央	8月20日（火）～ 22日（木）	4
浜田保健所	浜田	8月20日（火）～ 22日（木）	5
益田保健所	益田	8月20日（火）～ 22日（木）	3
隠岐保健所	島後	8月20日（火）～ 22日（木）	5
	島前	8月19日（月）～ 21日（水）	2

計30名

学年別内訳

1年	2年	3年	4年	大学別内訳	島根大学	自治医科大学	鳥取大学
16名	3名	6名	5名	島根大学	18名	7名	5名

■夏季地域医療実習意見交換会

【日 時】 令和元年 8月23日（金） 11：00～14：15

【場 所】 講義棟 1階国際交流ラウンジ

【参加者】 医学生29名、保健所・病院・大学関係者 8名

【概 要】 県内の保健所及び医療機関に協力を頂き、夏季地域医療体験実習を行った。最終日の4日目は「実習で印象に残った体験」「島根の地域医療の良いところ・課題」「島根の地域医療の改善策」について意見を出し合い、ワールドカフェ形式で3回のラウンドを行った。

各圏域が抱える課題や取り組みなど、大学（自治医科大学・鳥取大学・島根大学）や学年の垣根を越えて情報の共有をはかり島根の地域医療について活発な意見交換がなされた。



■令和元年度春季地域医療実習

【期 間】 令和2年3月2日（月）～ 6日（金） ※6日は意見交換会

実施期間	地 区 等	日 程	参加人数	
松江保健所	松江	3月2日（月）、3日（火）、5日（木）	1	
雲南保健所	雲南	3月2日（月）～ 4日（水）	3	
出雲保健所	出雲	3月2日（月）～ 4日（水）	2	
県央保健所	県央	3月2日（月）、4日（水）、5日（木）	1	
浜田保健所	浜田	3月2日（月）～ 4日（水）	1	
益田保健所	益田	3月2日（月）～ 4日（水）	1	
隠岐保健所	隠岐	島後	3月3日（火）～ 5日（木）	5
		島前	3月2日（月）～ 5日（木）※3泊4日	3

計17名

学年別内訳

大学別内訳

1 年	2 年	島根大学	広島大学
15名	2名	16名	1名

令和元年度春季地域医療実習は、上記の通り準備を進めていた。

しかし令和2年2月27日、日本国内において新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を踏まえ、感染拡大のリスク低減及び実習施設の患者・入所者への重症化リスク低減の観点から中止の決定が下された。

8) フレキシブル実習（地域医療体験実習Ⅱ）

【日 時】 令和元年11月26日（火）18：00～19：30

【場 所】 みらい棟1階 みらいラウンジ

【参加者】 17名（学生15名、地域医療支援学講座2名）

【概 要】 講座では、地域医療に興味ある学生が自ら企画立案を行う考える実習「フレキシブル実習」の支援を行っている。実習は事前に教員と面談を行い、学生自らが医療機関へ依頼、或いは学会参加申込を行う。

フレキシブル実習には21人の学生が参加（日本プライマリ・ケア連合学会学術大会等への参加含む）し、報告会には15名の学生が出席した。報告会は、各実習施設での学びや魅力・自己の課題等の発表がなされ、活発な意見交換が行われた。

学生達の発表には、大学の講義では学べない地域医療の魅力を肌で感じ、次の学びにつながるモチベーションアップを感じた。

【令和元年度フレキシブル実習協力機関】

雲南市立病院、気仙沼市立本吉病院、浜田医療センター
 浜田市国民健康保険弥栄診療所、福島県立医科大学衛生学・予防医学講座

令和元年度フレキシブル実習参加者

No.	学年	受入施設	期間
1	5		4月29日、5月3日
2	6	雲南市立病院	7月21日、28日、8月31日～9月1日、 9月13日～14日、11月7日～8日、11月23日～24日、 12月3日～4日、12月12日～13日、12月15日、 令和2年1月2日～3日、5日、2月15日、 2月17日～3月5日
3	4		令和2年2月18日～19日
4	6		6月11日～12日
5	6	益田赤十字病院	6月17日～19日
6	6		8月6日～7日
7	4	出雲保健所	8月2日、10日、19日
8	5		8月25日～27日
9	4		8月25日～27日
10	3		8月25日～27日
11	3		8月25日～27日
12	2	弥栄診療所・ 野坂集会所	8月25日～27日
13	2		8月26日
14	1		8月25日～27日
15	1		8月25日～27日
16	1		8月25日～27日
17	5	浜田医療センター	8月29日～30日
18	3	福島県立医科大学 衛生学・予防医学講座 気仙沼市立本吉病院	11月8日～9日
19	3	福島県立医科大学 衛生学・予防医学講座 気仙沼市立本吉病院	11月8日～9日
20	3	松ヶ丘病院	12月25日～26日
21	4	浜田保健所	令和2年2月17日、18日、19日

令和元年度フレキシブル実習参加者
 1年間のあゆみ
 令和元年度
 実習で学ぶ1年間のあゆみ

2 学生支援等

1) 地域医療セミナー

令和元年度は下記の地域医療セミナーを学内にて開催した。

第1回地域医療セミナー

- 【テーマ】総合診療の醍醐味
- 【実施日】平成31年4月15日（月）18:00~19:30
- 【場所】みらい棟2階 共通カンファレンス I
- 【講師】総合医療学講座 講師
大田総合医育成センター 木島 庸貴 先生

【参加者】20名

【概要】セミナーは総合診療専門医として、これまで地域を診てその経験値から語られる、メッセージ性の強い内容だった。総合診療専門医の定義を分かりやすくお話し頂いた。

醍醐味とは「物事の本当の面白さや深い味わい」という意味があるが、今まさに木島先生が感じられている、学問としての総合診療の醍醐味が伝わった。また、学生時代の過ごし方の質問には、2つのメッセージが送られた。1つは「物事の本質を追求する姿勢」で、もう1つは「人との出会いを大切にすること」であった。疑問点をWEB上の表層情報だけで解決せず、深く追求することがその後の診療姿勢に繋がる。医師である前に人としての部分に触れられ、学生達の心に深く届いたのではないかと思います。



第2回地域医療セミナー

- 【テーマ】地域で総合診療を行うために必要なこと
- 【実施日】令和元年5月24日（金）18:00~19:30
- 【場所】みらい棟2階 共通カンファレンス I
- 【講師】雲南市立病院 内科医長 遠藤 健史 先生

【参加者】14名

【概要】テーマの答えはセミナーの最初にあった。

それは「“evidence”は“get”できる」、必要な情報は自分で手に入れるというものだった。どんな医療現場にいても、先輩に教えてもらうという受身の態度ではなく、自分で調べることが出来る様にしておくことが、自らを高めていくことに繋がると話された。

「発熱」を題材にどのように医療情報を取り、治療に繋げていくのか、受講者参加型で進められた。問診時の「事実」を聞き取る情報収集ルールから、絞り込んでガイドラインの活用、そして診療支援二次ツール「UpToDate」を起動し演習を行った。アンケートには「今後の医療面接に活かそう」「UpToDateや論文等で最新の情報を得ることの必要性が理解出来た」というような声が寄せられた。





1年間のあゆみ

第3回地域医療セミナー

【テーマ】 離島医療のすすめ
 【実施日】 令和元年6月21日（金）18：00～19：00
 【場 所】 講義棟1階 国際交流ラウンジ
 【講 師】 隠岐病院診療部長、地域連携部長、
 島の医療人育成センター長 加藤 一朗 先生

【参加者】 21名

【概 要】 加藤先生は、漫画「コウノドリ」17巻離島医療編のモデルである。セミナーを通して参加者の離島医療のイメージがプラスに転化することを期待するというメッセージから始まった講話は、最初に学生が挙げていたマイナスイメージを大きく払拭するものだった。内容は、離島医療に必要な人材育成の取り組みや本土への救急搬送を含む症例の紹介、またそのような緊急時のアセスメントを要する問題の出題、そして、隠岐島ならではの生活を通しての楽しみ・喜び等、多彩であった。

先生からは我々の反応を見て「ここは笑いどころ」と突っ込みが入り、笑い且つ学ぶという展開の中で、人材を育成することの意味やチーム医療の重要性など多くのことを学んだ。



第4回地域医療セミナー

【テーマ】 地域包括ケアと在宅医療 ～新しい医学の創造～
 【実施日】 令和元年7月12日（金）18：00～19：30
 【場 所】 みらい棟2階 共通カンファレンス I
 【講 師】 東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所
 所長 平原 佐斗司 先生

【参加者】 11名

【概 要】 地域包括ケア時代の在宅医療を、歴史をひも解きながら、日本が迎える超高齢多死社会におけるエンドオブライフについて話を伺い、ケアリングの神髄を学んだ。

最期の時を在宅で過ごしたご本人及びご遺族のメッセージは、その医療を受けた満足感で溢れていた。改めて「尊厳ある死とは何か、グリーフケアとは何か」を考えさせられ、そこに携わる医療職が本人の生き方をどう支えていけば良いのか、その質が問われていることがわかった。

先生の様々な先進的な取り組みから、暮しの場の医療が転換期を迎える中で、多職種と連携しながらどうシステムを構築していくのか、その在り方と地域医療をどう支えていくのか医療職として姿勢やマインドを授かった。



1年間のあゆみ

1年間のあゆみ

1年間のあゆみ

1年間のあゆみ

1年間のあゆみ

第5回地域医療セミナー

【テーマ】家庭医という選択

【実施日】令和元年9月25日（水）18：00～19：30

【場 所】みらい棟2階 共通カンファレンス I

【講 師】飯南病院 医長 松本 賢治 先生

【参加者】18名

【概 要】家庭医の専門性は、「①患者中心の医療 ②家族志向型のケア ③地域包括プライマリ・ケア」に代表されると話された。医療者主体の治療ではなく、病が患者さんやその家族の毎日の生活にどのような影響を与えているのかを診て、更には地域の問題・住民の健康や生活の質という観点から捉える。先生はやや偽善的ではあるがと前置きをして、「人生に寄り添って医療の提供ができるのが“家庭医”である」と定義された。飯南病院での地域包括ケア推進局を主体とした地域ケア会議で「この人のために」とチームで共に考え実践していらっしやる経験をお聞きする中で、決して偽善的ではなく、その経験値から発せられた至誠の定義であると感じた。



第6回地域医療セミナー

【テーマ】地域で医療すること

【実施日】令和元年10月25日（水）18：00～19：30

【場 所】みらい棟2階 共通カンファレンス I

【講 師】気仙沼市立本吉病院 院長 齊藤 稔哲 先生

【参加者】15名

【概 要】学生に問い掛けをしながら、小規模病院は生活を維持する医療と評され、本吉病院は、「地域に起こる全ての医療・介護の課題の窓口になり、様々な活動を通して解決を図る地域に根差した小規模多機能病院」と紹介された。地域医療には、住民との対話が欠かせない。患者と共に健康障害となりえる「種」がないか探し、発芽しないように生活を考え、患者とその家族が満足できる解決策を自身が考え行動できるよう導く。まさに、地域包括ケアシステムの構成要素が頭に描け、同時に「自助・互助・共助・公助」の4つの「助」の基礎である、自助の部分育てる医療実践を学んだ。

学生のアンケートにも「地域医療をやるモチベーションを得た。」等の感想があった。





1年間のあゆみ

第7回地域医療セミナー

【テーマ】高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア～高齢者にとっての最善を実現するために～

【実施日】令和元年12月11日（水）18：00～19：30

【場 所】みらい棟2階 共通カンファレンス I

【講 師】松江市立病院 副看護局長／老人看護専門看護師
吉岡 佐知子 先生

【参加者】16名

【概 要】超高齢・多死社会の到来は高齢者にとって何が最善の医療で何が最善のケアなのか？ 模索する機会が格段に増えているというメッセージから始まった。

高齢者が納得できる最善とは、医学的な判断とは異なり、本人の意思を中心に家族も含めた関係者による十分な話し合いによって判断する必要があるとお話を頂いた。特に日常の生活場面において本人の意思を捉えることが大切であり、不適切なケアは高齢者に苦痛を与え、それは虐待にも等しく、ケアリングの姿勢をもって臨む日々の丁寧なケアが高齢者の尊厳保持に繋がることを学んだ。

最期の生を支える専門職になる学生あるいは職員に、高齢者にとっての最善とは何か警鐘を鳴らし、考える機会を頂いたことに感謝する。



第8回地域医療セミナー

【テーマ】在宅医療でのエンド・オブ・ライフ・ケア

【日 時】令和2年1月31日（金）18：00～19：30

【場 所】みらい棟2階 共通カンファレンス I

【講 師】ももたろう往診クリニック 院長 小森 栄作 先生

【参加者】15名

【概 要】先生が外科医から在宅医療に特化した診療所を開設されたのは、自宅に医療のサポートがあれば、患者は家で過ごすことができ、患者の生き方の選択肢が広がると考えられたからである。

日々の在宅診療の様子を動画やお話でうかがう中、会場が徐々に人としての優しさや感動に包まれていくのを感じた。それは、先生の診療がQOLを目標とする生活モデル（ICF）を重視し、その対象は病気だけでなく、それぞれの人生を持つ「人」であり、そこには個々の意思を尊重した寄り添う在宅医療の実践があったからである。

看取った家族からのメッセージには、先生への信頼はもとより、幸福な時間を共に過ごせたことへの感謝に溢れていた。

講演を通してQOLが持つ深淵の意味を教えて頂いた。



2) 地域医療・感染症セミナー

令和元年度は下記の地域医療・感染症セミナーを学内にて開催した。

第1回地域医療・感染症セミナー

- 【テーマ】感染症を取り巻く日本と世界の状況
なぜ今、感染症が注目されるのか
- 【実施日】令和元年9月6日（金）18：00～19：30
- 【場所】みらい棟4階 ギャラクシー
- 【講師】東京医科歯科大学附属病院 感染制御部
副部長 羽田野 義郎 先生
ケースプレゼンター：島根県立中央病院
麻酔科 藤原 辰也 先生

【参加者】45名

【概要】羽田野先生からすでに昼間特別講義を受けた医学科4年生を含む多くの学生や他院の医師の参加があった。「トップランナーの感染症外来診療術」「抗菌薬ドリル」の編者である羽田野先生の人気の高さがうかがわれた。前半で、ケースプレゼンターの藤原先生により肺炎球菌による重症肺炎の症例が報告された。学生たちにも分かりやすく問いかけながら進められた。羽田野先生には症例報告のアドバイザーとして、フロアの学生や医師等らとドクターG張りのディスカッションを通してご指導頂いた。学生からは、コモンな感染症症例について学びが深まったと好評であった。



第2回地域医療・感染症セミナー

- 【実施日】令和2年1月20日（月）18：00～19：30
- 【場所】みらい棟4階 ギャラクシー
- 【講師】静岡県立静岡がんセンター 感染症内科
部長 倉井 華子 先生
ケースプレゼンター：島根県立中央病院
麻酔科 藤原 辰也 先生

【参加者】32名

【概要】藤原先生からは、マダニを媒介とする重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の症例が報告され、学生や研修医とディスカッションが行われた。倉井先生には、「虫と感染症－キモくてかわいいあの子達－」をご講演頂いた。先生は四季折々を虫で感じる（日日虫好日）そうである。春夏秋で採取物は違い、越冬する今は虫が恋しくテンションが下がると話されるが、かわいいあの子達に対する愛は深く、その弁舌たるや爽やかであった。若干引き気味の聴衆も、蚊の生態とジカ感染症・デング熱、寄生虫に新型コロナウイルス感染症、また、オリンピック開催でこれ迄経験しなかった症例の発生懸念等、いつの間にか蟲姫ワールドに引き込まれ、虫と感染症について楽しく学んだ。





3) ランチョンセミナー

令和元年度は下記のランチョンセミナーを学内にて開催した。

第1回ランチョンセミナー

【日 時】平成31年4月16日（火）12：15～12：45

【場 所】みらい棟2階 共通カンファレンス I

【講 師】島根大学医学部解剖学講座 神経科学
教授 藤谷 昌司 先生

【参加者】37名

【概 要】第1回は昨年4月に解剖学講座教授に就任された藤谷先生にお願いした。先生は、横軸を時間、縦軸に満足度（モチベーションの源泉、気分の高低差を含む）の人生グラフを用いて、ご自身の46年間を可視化する形で、4段階に分けてお話下さった。プライベートを織り交ぜながら、子ども時代・医学生時代・研究者人生のその時々々の決断や支えてくれた人の存在、そこで得た掛け替えのないもの、そして最後に「人生を振り返って思うこと」と「自分の夢」を伝えて下さり、これからキャリアデザインを描く学生達に多くの示唆と動機付けを与えて頂いた。前任の兵庫医科大学ではベストティーチャー賞を受賞、先生の飾らないお人柄と話術に我々も魅了された時間だった。



第2回ランチョンセミナー

【実施日】令和元年5月31日（金）12：15～12：45

【場 所】みらい棟2階 共通カンファレンス I

【講 師】島根大学医学部腫瘍・血液内科 助教 井上 政弥 先生

【参加者】16名

【概 要】これ迄のご自身の仕事を8つのカテゴリに分けて、「大病院という選択は悪くない」に始まり、「腫瘍内科・血液内科も悪くない」と最後に医局PRを含めて大学の魅力を存分に語って下さった。時代を彷彿させる入局時エピソードや大学という大きな組織の中で信頼できる仲間とともに仕事ができる事の充実感、ネットワークの形成、最新の情報が得られることのメリットなど「悪くない情報」が満載だった。

また、先生は日本エイズ学会認定医で、HIVはもはや脅威ではなく、エイズが終息に向かおうとするこの時代に医師として立ち会えることの感慨も伝えて下さった。キャリアを語られる先生の表情・口調にはお人柄が滲み出るものがあり、何度となく会場が笑いで包まれた。



第3回ランチョンセミナー

【実施日】令和元年6月26日（水）12：15～12：45

【場所】みらい棟2階 共通カンファレンス I

【講師】島根大学医学部放射線医学講座 放射線科

助教 吉田 理佳 先生

【参加者】17名

【概要】先生のきびきびとした歯切れのよい言葉が耳に心地良く、明朗闊達なお人柄が表れ、テンポの良さに魅了された。前半は先生のキャリアから専門医や学位の取得等について話され、情報の提供と同時に「決めるのはあなたです」と、常に意思決定は自分であることを強調して下さった事が印象に残った。また、学生達が聞きたくても聞けない収入・支出に関する money・tax 情報や愛犬とのプライベートな時間等、医師の日常を知ることができた。後半は、放射線科の魅力をPRされ、最後はドラマ「ラジエーションハウス」張りの島大放射線科医師陣による医局ポスター紹介でしめられた。将来は放射線科という選択に心を動かされた学生も少なくなかったように思われる。



第4回ランチョンセミナー

【実施日】令和元年7月9日（火）12：15～12：45

【場所】みらい棟2階 共通カンファレンス I

【講師】島根大学医学部内科学講座 肝臓内科

学内講師 飛田 博史 先生

【参加者】15名

【概要】ソフトな声の飛田先生は、マイク1本をもって学生一人一人に問い掛けながら話された。印象に残ったメッセージは、人との出会いを大切にすること、その出会いは自分自身を高めることに繋がるというものだった。それは、尊敬する先生との出会い、キャリアを積まれた先々での出会い、そしてプライベートでの運命的な出会いに裏打ちされたものだった。

また、ご専門の領域では、C型肝炎の治療が内服薬選択の時代に入り、ウイルスの排除率も95%以上で治る疾病になったこと、これからは非アルコール性脂肪肝炎等の生活習慣関連肝疾患に対し、他科と連携した臓器横断的診療活動が主流となってくること等を聞き、治療の動向を知ることができた。



第5回ランチョンセミナー

【実施日】令和元年9月10日（火）12：15～12：45

【場 所】みらい棟2階 共通カンファレンス I

【講 師】島根大学医学部 救急医学講座 准教授 瀧波 慶和 先生

【参加者】19名

【概 要】先生は教員を経験されてから、社会人で医師を志され、当時は学士入学制度がなくセンター試験を受けて医学科に入学されたそうである。いろいろな土地で学び働き、キャリアを積み、その多様性から先生のお人柄や魅力が垣間見えるお話し振りだった。

セミナーは、症例が提示され救急の鉄則を交えたクエスチョン形式で進められた。救急の医療現場は、1分1秒が生死を分ける中で、救急医でありながら総合医のような知識と判断力が求められる。現場ではあってはならないヒューマンエラーを、提示されるクエスチョンと共に体感しながら、3要因とそれを防ぐための対策『①思い込み（確認する）、②錯覚（よく見る）、③なれ（Break down 繰り返し）』を学んだ。



第6回ランチョンセミナー

【実施日】令和元年10月1日（火）12：15～12：45

【場 所】みらい棟2階 共通カンファレンス I

【講 師】島根大学医学部 集中治療部 助教 片山 望 先生

【参加者】13名

【概 要】卒後3年目に麻酔科に入局され、専門の小児心臓麻酔に取り組まれた小児専門病院や他大学での研修、国際学会での発表や海外での医療支援、麻酔科専門医の取得等、どのようにキャリアを積まれたのかお話を頂いた。また、現在大学院での臨床研究や心臓血管麻酔専門医の取得を目指されている。先生の「身をおける環境があるかが大事。進路選択は多数あるが、最終的に選ぶのは自分」というメッセージが印象に残った。

身をおける環境であるか見極めるのも自分であり、良い環境で得られる経験の質は高く、成長に繋がる。つまり、先生ご自身が明確なキャリアビジョンを持ち、そこに到達するまでのキャリアプランの設計と具体的な行動がプロセスとしてあることが分かった。



第7回ランチョンセミナー

【実施日】令和元年11月25日（月）12：15～12：45

【場 所】みらい棟2階 共通カンファレンス I

【講 師】島根大学医学部 内科学講座（内科学第2）

教授 石原 俊治 先生

【参加者】計21名

【概 要】今年内科学講座（内科学第2）の教授に就任された石原俊治先生にお話を頂いた。

先生は炎症性腸疾患の診療をライフワークに、どのようにキャリアを積んでこられたのか、診療・教育・研究の3分野からその業績と内科学講座（内科学第2）としてのキャリアプランを伺った。先生は診療・教育・研究の3つのバランスが取れた医師の育成を目指され、地域の基幹病院との連携の中で①全消化器領域をカバーできる医療②地域のニーズに見合った高度医療の推進を図りたいと話された。地域の病院との連携は、地域枠等の医師のキャリア形成にも関わり重要と考えているとも話され、関係講座としては大変有り難いメッセージを頂いた。終始アカデミックなお話に学生達の心も動かされたようであった。

2019年度第7回
ランチョンセミナー
学生のあなたに伝えたいこと
石原 俊治 先生
（消化器内科学講座）
この度 教授に就任された先生のお話を聞いてみよう！
2019. 11. 25 mon.
12:15-12:45（遅刻・早退 OK）
場所：みらい棟2階 共通カンファレンス I
対象：医学部生1～6年生
お弁当あり※要予約（11/20まで）持ち込みも可！
主催・申込先：地域医療支援学講座
☎0853-20-2558
☞career@med.shimane-u.ac.jp

第8回ランチョンセミナー

【実施日】令和元年12月10日（火）12：15～12：45

【場 所】みらい棟2階 共通カンファレンス I

【講 師】島根大学医学部 泌尿器科学講座

准教授 安本 博晃 先生

【参加者】21名

【概 要】先生が医師を志されたのは岩村昇医師のお話が切っ掛けだったそうである。広大泌尿器科入局年が、腹腔鏡下骨盤内リンパ節郭清術が初めて成功した年で、先生は医師が直接鉗子操作を行う手術から現在の手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」への進化過程と並行してキャリアを積まれている。

ダ・ヴィンチによる手術動画には、学生達の視線がスクリーンに引き込まれるのが分かった。手術は術者のテクニカルスキルの向上は勿論の事、自らを俯瞰するメタ認知やノンテクニカルスキル、Team STEPPS 等が重要であることを学生に伝えられた。

一方先生のご趣味はケーキ作りや家庭菜園で、先生の緻密さと柔らかさは、仕事と趣味のオンオフの上手な切り替えから生まれているように感じた。

2019年度第8回
ランチョンセミナー
学生生活や進路について聞いてみよう！
学生のあなたに伝えたいこと
安本 博晃先生
（泌尿器科学講座 准教授、
ロボット支援手術推進センター センター長）
12/10(火)
12:15-12:45
（遅刻・早退 OK）
（ダ・ヴィンチを操作し、手術中の先生）
場所：みらい棟2階 共通カンファレンス I
対象：医学部生1～6年生
お弁当あり※要予約（12/4まで）
主催・申込先：地域医療支援学講座
☎0853-20-2558
☞career@med.shimane-u.ac.jp



1年間のあゆみ

第9回ランチョンセミナー

【実施日】令和2年1月17日（金）12：15～12：45

【場所】みらい棟1階 みらいラウンジ

【講師】島根大学医学部 地域医療政策学講座
教授 廣瀬 昌博 先生

【参加者】21名

【概要】新年初のセミナーは、3月に退官なさる廣瀬教授をお迎えしました。先生が繰り返し学生に伝えられたメッセージは、「やってみないとわからない」であった。

先生は外科医としてのスタートから経歴をたどり、その時代の医局制度にも深く切り込み、ジョークを交えながら学生にお話しされた。医学博士に加えて社会健康医学博士の取得や学会への提言、米国留学、論文投稿申請など、先生の前に立ちはだかる壁があれば、自らが切り開き変革の一步を印された中から生まれたメッセージであることが分かった。

最後に最近視察されたスウェーデンの診療事情などお聞かせ頂き、「医療はどうあるべきか常に考えられる本物の医師になってほしい」というラストメッセージが学生達に送られた。



第10回ランチョンセミナー

【実施日】令和2年2月17日（月）12：15～12：45

【場所】みらい棟1階 みらいラウンジ

【講師】島根大学医学部 救急医学講座 教授 岩下 義明 先生

【参加者】21名

【概要】タイトルは「私のこれまでの歩みとこれからと」であった。スライドショーで見るとその歩みには、聴衆の「凄い」という心の声が聞こえてくるようであった。モットーは、「地方の地味な診療の場から世界を驚かす仕事をする」だそうである。その言葉通り、患者との体験を大切に、論文や機器の開発等を行い世界に発信されている。

これからについては、先生の構想を可視化した概念図（学生と研修医が中心にいて、大学・救急、地域、海外の3つを拠点にしながら、共同研究・重症患者の集約化・英語教育）をお見せ頂いた。

最後に示されたリンカーンの「The best way to predict your future is to create it.」は、自ら動き、チャンスを掴み、それを未来に繋ぐことを実践される先生の姿勢そのものであるように窺えた。



学生生活

学生生活

1年間のあゆみ

学生生活

学生生活

4) 社会医学系専門医の魅力がわかるケーススタディ

プロジェクト Social medicine (しまね公衆衛生の会)

社会医学は、社会システム全体を変革し、人の生（いのち）を衛るための医学であり、社会医学系専門医とは「1億2千万人の生（いのち）を衛る」専門医である。社会医学系専門医は平成29年度からプログラムが開始されており、全国でも多くの専攻医が登録している。島根県内では現在4名の専攻医が研修している。

社会医学に興味・関心がある学生や医師に対し、月に1回みらいラウンジにおいて社会医学系の専門医によるケーススタディを行っている。

社会医学系専門医の魅力がわかるケーススタディ

日	時間	内容	講師	出席者 (学生)
5月25日	17:15 18:30	全国に先駆けてはじめた「肝がん予防のためのウイルス性肝炎対策」	島根県健康福祉部 医療統括官 谷口 栄作先生	15 (6)
6月30日	17:15 18:30	島根県の10年後の医療提供デザインを考える	雲南保健所 医療専門幹 杉谷 亮先生	14 (3)
7月15日	16:00 17:30	地域の集団感染に立ち向かい、制御する	島根県保健環境研究所 総務部長 柳楽 真佐実先生	12 (3)
9月7日	16:00 17:30	江津市の健康づくりを考える	島根県浜田保健所 所長 村下 伯先生	12 (2)
10月12日	16:00 17:30	離島隠岐の医療提供体制の創造	島根県隠岐保健所 所長 片岡 大輔先生	10 (4)
11月16日	16:00 17:30	HIV対策としてのHIV無料検査の意義	島根県益田保健所 所長 中元 稔先生	13 (4)
1月11日	16:00 17:30	万人の一步をすすめる「健康づくり・予防政策を創る」	島根県健康福祉部 医療統括官 谷口 栄作先生	14 (5)
2月29日	16:00 17:30	すべての県民が良質な医療を受けるために ～医療提供体制をどう創るか?～	島根県健康福祉部 医療政策課 課長 山崎 一幸先生	10 (3)



5) ビデオセミナー

学生に対して幅広く勉強する機会を増やすと共に、職員の医学知識のブラッシュアップも目的に、週1回昼休憩の12時から30分程の間、地域医療支援講座スタッフルームでビデオ上映をしている。

上映日	シリーズ名	タイトル	講師
4月9日	Dr.岡の感染症 プラチナレクチャー 市中感染症編	感染症診療の8大原則	岡 秀昭 (埼玉医科大学 総合医療センター 総合診療内科・ 感染症科 准教授)
4月23日		市中肺炎 初期診療アプローチ	
5月7日		市中肺炎 治療経過と合併症	
5月14日		単純性尿路感染症	
5月21日		複雑性尿路感染症	
5月28日		感染性腸炎	
6月4日		肝胆道系感染症	
6月11日		細菌性髄膜炎	
6月18日		感染性心内膜炎	
6月25日		皮膚軟部組織感染症	
7月2日		骨・関節の感染症	
7月9日		Dr.林の笑劇的 救急問答 Season13 上巻	
7月16日	腫瘍救急2 TLSってなんだ？		
7月23日	ポリファーマシー1 原因薬剤を突き止めろ！		
7月30日	ポリファーマシー2 減らせばいいってものじゃない！		
9月3日	Dr.林の笑劇的 救急問答 Season13 下巻	緩和救急1 救命だけが救急の使命ではない！	林 寛之 (福井大学医学部 附属病院 総合診療部 教授)
9月10日		緩和救急2 なんでもかんでも救命?!	
9月17日		高齢者骨折1 見逃さないで！大腿骨頸部骨折	
9月24日		高齢者骨折2 だまされないで！圧迫骨折	
10月1日	志水太郎の診断戦略 エッセンス	なぜ今、診断戦略か？	志水 太郎 (獨協医科大学病院 総合診療科診療部長 総合診療教育 センター長)
10月8日		2つの思考とプロセス	
10月15日		診断力をどう鍛えるか？	
10月29日		診断の型のイノベーション	
11月5日		病歴の技法	
11月12日		注意すべきいくつかの戦術的要所	
11月19日		難症例に打ち勝つ戦術	

上映日	シリーズ名	タイトル	講師
11月26日	Dr.香坂の アカデミック・ パスポート	「失神の鑑別疾患を知りたい」 マニュアルや教科書の使い方を覚える	香坂 俊 (慶應義塾大学 循環器内科 専任講師)
12月3日		「利尿薬の量を決めたい」 原著論文の使い方を考える	
12月10日		論文を効率的に読む	
12月17日		「文献の引き方」から 前向き研究を読む	
12月24日		「論文の書き方」まで 後向き研究を読む	
1月7日		研究スタイルの使い分けの意味を知る	
1月14日		学会発表、論文執筆にチャレンジ	
1月21日	Dr.小松のとことん 病歴ゼミ	肩こりで帰してはいけない頸部痛	小松 孝行 (順天堂大学医学部附属 練馬病院救急・集中治 療科)
1月28日		パニック障害の再発？それとも…	
2月4日		その「だるい」本当はいつから？	
2月18日		ちょっと尻もちをついただけで骨折？	
2月25日		えっ？ 25歳男性が母親と受診	
3月3日	「風邪ひいちゃったみたい」の訴えの危うさ		
3月10日	無敵の研修医 ストレス マネジメント	デキレジはどうつになりやすい！？	鈴木 瞬 (豊後荘病院精神科ストレ スケア・アルコール病棟長 /SNC産業医事務所代表) 鈴木 裕介 (ハイズ株式会社 経営コ ンサルタント 内科医師)
3月17日		身に付けるべきストレス対処術	
3月24日		看護師さんを味方につけるマル秘テク 「TNM」	
3月31日		オーベン、チューベンとどう接する？	

6) 学生等個別面談

地域枠等及び奨学金受給の学生に対して、個別面談を実施している。学年担当教官がそれぞれ分担して、年1回の定期的な面談ならびに必要なに応じて不定期に面談を行っている。

生活状況、学習状況など把握するとともに、相談や必要に応じて指導を行っている。

令和元年度面談実施者のべ数：125名（3月13日時点）

令和元年度 地域枠等学生数 ()は奨学金なし

		学 生						学生計
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
地域枠	(一般)	10	11 (1)	12 (1)	9	6	5	53 (2)
	(学士)	-	-	-	-	1	2 (1)	3 (1)
緊急医師確保		5	5	5	6	6	4	31
県内定着		7	7	8	8	8	6	44
地域枠等合計		22	23 (1)	25 (1)	23	21	17 (1)	131 (3)
奨学金のみ		3	1	4	5	6	4	23
奨学金のみを含めた合計		25	24 (1)	29 (1)	28	27	21 (1)	154 (3)



7) サークル活動支援等

(1) 島根大学医学部地域医療研究会

地域医療研究会では、月2回程度の部会、夏の地域医療合宿に加え、不定期にイベントを行っている。当講座では部会の場所の提供と必要に応じて相談にのる等のサークル支援を行っている。

■地域医療研究会 夏季合宿

【日 時】令和元年8月25日(日)～27日(火)

【場 所】浜田市弥栄診療所他

【内 容】地域医療研究会が浜田市弥栄地域で夏のフィールドワークを行った。各グループに分かれて、弥栄診療所で実習を行い、また野坂集会所にて発表会を行った。

■第10回プライマリ・ケア連合学会参加

【日 時】令和元年5月17日(金)～19日(日)

【場 所】京都府

【参加学生】6名

8) 医師のキャリア支援

しまね地域医療支援センターと連携しながら、医師のキャリア支援を行っている。当講座教授がしまね地域医療支援センターの理事、専任医師、企画委員長を務め、その運営にも積極的に関わっている。地域枠等卒業医師及び奨学金受給医師等の対象医師に対して、個人面談を行い、キャリアプランの作成支援を行うとともに、レジナビ、マッチング説明会などにも積極的に関わっている。

また、しまね地域医療支援センターから委託を受け、総合診療医育成ネットワーク事業、ワークライフバランス支援を行っている（これについては別項で掲載する）。

() は奨学金非受給者

		研 修 医					医師計
		初期1年	初期2年	後期1年	後期2年	後期3年以降	
地域枠	(一般)	11	10	7	10	34 (6)	72 (6)
	(学士)	1 (1)	4 (3)	1 (1)	2 (1)	6 (2)	14 (8)
緊急医師確保		7	6	7	-	3	23
県内定着		7	5	5	-	-	17
地域枠等合計		26 (1)	25 (3)	20 (1)	12 (1)	43 (8)	126 (14)
奨学金のみ		3	9	8	6	28	54
奨学金のみを含めた合計		29 (1)	34 (3)	28 (1)	18 (1)	71 (8)	180 (14)

3 教育FD

講座では、教員の研究能力や教育能力の開発、教育システムの開発等の資質の向上を図るために、FD（Faculty Development）を職員や学生の参画を得ながら取り組んでいる。

■令和元年度医学教育FD

【基調講演】 自治医科大学 地域医療学センター総合診療部門

地域医療学センター長／教授 松村 正巳 先生

「医学教育分野別評価と地域医療教育

－多様なニーズに対応できる柔軟な医師育成－」

【目的】 自治医科大学は、2017（平成29）年に日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価日本版Ver.2.11を受審し認定された。自治医科大学が展開されている医学教育・総合医療学の実施等について、また分野別認証評価にあたっての取り組みについてもお話しいただく。加えて、医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）では、社会における医療の実践として、地域医療の貢献に重点が置かれている。地域医療の背景から多様なニーズに対応するマインドを涵養するカリキュラムの構築の在り方をお話しいただき、本学の分野別国際認証受審への知見を得ることとした。

【日時】 令和元年6月28日（金）18：00～19：30

【場所】 講義棟1階 国際交流ラウンジ

【対象】 大学教員及び職員、地域医療実習棟で学生指導を担当する医療機関の医師、学生等

【参加者】 17名

【中継】 テレビ会議システムで下記の医療機関に配信を行った。

隠岐病院・大田市立病院・浜田医療センター・公立邑智病院・益田赤十字病院





4 地域医療交流サロンの取り組み

1) 地域医療交流サロン・みらいラウンジ

平成22年に学内に「地域医療交流サロン」を設置した。ここは現在みらい棟2階の当講座スタッフルームの向かいにあり、地域枠推薦入学等の学生と行政・医療機関との交流、学生と当講座教員との面談、地域医療関係のサークル活動等に利用されている。学生が地域の行政担当者・医療機関関係者と顔の見える関係を作ったり、地域医療のモチベーションを維持させたりするのに大いに役立っていると言える。さらに「地域医療交流サロン」には地域医療、公衆衛生、統計学等に関する約1000冊の蔵書があり利用者も多い。また、何も予定がない時には学生の学習の場所としても頻繁に活用されている。

みらい棟1階に設置された「みらいラウンジ」には県内の行政・医療機関の広報誌を掲示し、学生への情報提供の場としても一役を担っている。

2) 学生と行政・医療機関との交流

地域枠推薦入学等の学生の出身地域へのモチベーションを持続させるために、県内の行政・医療機関が企画・立案した交流会が実施され、当講座教員も参加している。

交流会では市町村長や病院長・先輩医師等の出席があり、地域の実情や医療の現状等を直接聞くことができ、学生の参加率も高い。令和元年度は下記の交流会が行われた。

【行政との交流会】

大田市交流会

令和元年7月11日（木）

出雲市内

参加者：23名（学生8名）

雲南市奥出雲町合同交流会

令和元年10月24日（木）

出雲市内

参加者：38名（学生12名）

隠岐の島町交流会

令和元年11月18日（月）

出雲市内

参加者：14名（学生3名）

津和野町交流会

令和元年8月21日（水）

津和野町内

参加者：16名（学生4名）

浜田市交流会

令和元年11月1日（金）

出雲市内

参加者 18名（学生5名）

安来市交流会

令和元年8月25日（日）

安来市内

参加者：30名（学生3名）

益田圏域交流会

令和元年11月6日（水）

出雲市内

参加者：29名（学生11名）

【医療機関との交流】

江津会

令和元年12月10日（火）

出雲市内

参加者：8名（学生3名）

3) 学生間、学生と教員等との交流

（新入生説明会・意見交換会、地域卒等全学年会、学年会）

4月の入学式後に地域卒等の新入生22名を対象に「新入生説明会・意見交換会」を開催した。島根県からは副知事をはじめ地域医療に関わる島根県健康福祉部・しまね地域医療支援センターの方々、本学からは医学部長にご参加いただいた。

内容としては、当講座や各機関のサポート体制の説明をメインに、新入生の自己紹介を兼ねての抱負の発表、先輩学生からのアドバイスの発表なども行い、親交を深めた。

また前年度に引き続き、地域卒等の学生が学年の垣根を越え一堂に集まる「地域卒等全学年会」を学生主催で行った。今年度は後期研修医の参加もあり、学生たち自らのキャリアプランを考える機会にもなり、悩みを相談したりアドバイスを行うなど、とても良い集まりとなった。

さらに、年間を通して地域卒等医学生相互、医学生と当講座教員、しまね地域医療支援センター職員、県職員等の交流・意見交換・親睦を目的として学年別集会を開催した。

■平成31年度新入生説明会・意見交換会

【日 時】 平成31年4月2日（火）17：00～19：00

【場 所】 附属病院 食堂 ラパン

【参加者】 43名

■令和元年度地域卒等全学年会

【日 時】 令和元年9月27日（金）19：00～21：00

【場 所】 出雲市内

【参加者】 44名



■令和元年度学年会

1年生学年会

【日 時】 令和元年6月12日（水）
18：30～

【場 所】 出雲市内

2年生学年会

【日 時】 令和元年10月30日（水）
18：30

【場 所】 出雲市内

3年生学年会

【日 時】 令和2年1月30日（木）
18：30～

【場 所】 出雲市内

4年生学年会

【日 時】 令和2年2月28日（金）
18：30～

【場 所】 出雲市内

5年生学年会

新型コロナウイルス感染症
感染拡大防止のため中止

6年生学年会

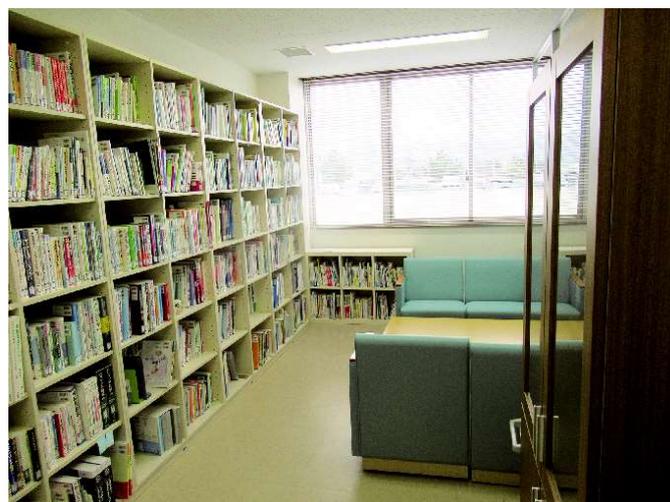
【日 時】 令和元年5月21日（火）
18：30～

【場 所】 出雲市内

4) 図書・DVDの貸出事業

「地域医療交流サロン」には地域医療、公衆衛生学、疫学、統計学、臨床関係等に関する約1000冊の蔵書、雑誌、「診療の達人」シリーズなどのDVDがあり、随時学生に貸し出しを行っている。

令和元年度貸し出し総数：3冊



5 地域医療支援等

地域の医療機関や行政等の相談を受け、個別にアドバイスをし、また地域医療を守る住民活動の取り組み支援を行っている。

1) 地域住民への支援

地域医療を守ろうと活動している住民団体が個々の地域の活動にとどまらず、相互に交流を図り、ブラッシュアップをするための支援を行った。

■令和元年度地域医療を守り育てる住民活動 in おおち

【テーマ】 島根の医療現状を知り、明日から自分にできる事を考える

【日時】 令和元年11月23日（土・祝）13：00～17：30

【場所】 いこいの村しまね

【主催】 公立邑智病院を支援する会

【参加者】 92名

【内容】 ①講演：「あなたの町の地域医療学」

島根大学医学部地域医療支援学講座 教授 佐野 千晶

講演：「ファミリーサポート 院内お泊り保育を受けて」

元いわみ西保育所 所長 金山 峰子

②活動発表：

- ・ 隠岐病院絵画ボランティアあかり
- ・ がんばれ雲南病院市民の会
- ・ 益田の医療を守る市民の会
- ・ 公立邑智病院を支援する会

③グループワーク

グループディスカッション

- ・ 現状・課題・できる事・まとめ

④全体共有

■令和元年 地域医療を守り・育てる住民活動 全国シンポジウム2019

【日時】 令和元年11月30日（土）・12月1日（日）

【場所】 東京グリーンパレス

【参加者】 島根県内住民団体・行政11名

【内容】 全国の住民組織との情報交換・ネットワーク作り



2) 第10回中四国地域医療フォーラム参加

中四国の地域医療関連寄付講座等、県、地域医療支援センター、各大学からの学生が一堂に会し、地域枠学生等の学部教育、キャリア支援を考えるフォーラムを各県持ちまわりで行っている。

【テーマ】 第1部 地域枠卒業医師をどう支援するか 第2部 ワークショップ

【日時】 令和2年2月7日（金）14：00～17：00 8日（土）9：00～15：00

【場所】 アークホテル岡山 3階 牡丹の間

【主催】 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療人材育成講座

岡山県地域医療支援センター岡山大学支部、岡山県保健福祉部医療推進課

【参加者】 中四国各県の地域医療にかかわる大学関係者、県行政担当者、
地域医療支援センター職員

【概要】 午前は「地域枠卒業医師をどう支援するか」というテーマで9大学から現状と課題の報告があり、活発な議論がなされた。続いて地域枠卒業医師2名から、日々どのような思いで診療にあたり、未来を描いているのか近況報告を聞かせて頂き、地域に対する深い愛と卒後の成長に頼もしさを感じた。

午後は「ライフイベントとの両立」「地域枠学生（医師）がどのようにして実力を身につけるか」「地域医療を守るためには」の3テーマで、学生も加わりワークショップを行った。課題とその解決策を提案する中で議論を行い、多くの示唆が得られた。

3) 島根県健康福祉部医師確保対策室・しまね地域医療支援センター・地域医療支援学講座合同勉強会

島根県の地域医療を担う医師の育成・定着を図るためには、島根県の寄付講座である地域医療支援学講座としまね地域医療支援センターの卒前教育から卒後に向けての切れ目ない連携が欠かせない。そこで、今年度は島根県健康福祉部医師確保対策室を加えた三者で月に1回合同勉強会を行った。

【場所】 みらい棟1階 みらいラウンジ

【内容】 入学制度、大学カリキュラム、島根県医学生地域医療奨学金、キャリア形成プログラム、医師臨床研修マッチング登録など

第1回	4月22日（月）	第5回	8月23日（金）	第9回	12月20日（金）
第2回	5月21日（火）	第6回	9月17日（月）	第10回	1月14日（火）
第3回	6月18日（火）	第7回	10月15日（火）	第11回	2月17日（月）
第4回	7月23日（火）	第8回	11月13日（水）	第12回	3月17日（火）

4) 抄読会

講座での活動をより充実させるため、週に1回程度勉強会を開いている。テーマは地域医療に限らず、大学の制度や医療全般について議論を交わしている。

NO.	月日	曜日	時 間	議 題
1	4月16日	火	15:00~16:00	医学生向け奨学金制度について
2	4月23日	火	15:00~16:00	博士論文の途中経過報告
3	4月30日	火	13:00~14:00	統計:質的データ解析法(SCAT)
4	5月7日	火	13:00~14:00	統計:質的データ解析法(SCAT)
5	5月15日	水	14:30~15:30	サービス付き高齢者向け住宅に関する実態調査報告
6	5月21日	火	15:00~16:00	医療情報について
7	5月29日	火	13:00~14:00	地域医療にかかわる島根大学医学部コンテンツ 地域実習I・IIシラバスについて
8	6月18日	火	15:00~16:00	統計:重回帰分析多重共線性
9	6月25日	火	16:00~17:00	科研費申請書作成について
10	7月10日	水	10:00~11:00	島根県保健福祉環境研究発表会報告
11	7月17日	水	11:00~12:00	ネット依存(ゲーム障害)研修報告
12	8月6日	火	16:00~17:00	在宅医療を含めた地域包括ケアシステム
13	9月2日	月	16:00~17:30	論文作成について
14	9月11日	水	11:00~12:00	論文作成について
15	9月18日	水	11:00~12:00	論文作成について
16	10月2日	水	11:00~12:00	地域医療学プレゼンテーション
17	10月15日	火	14:00~15:00	論文作成について
18	11月12日	火	11:00~12:00	論文作成について
19	11月20日	水	11:00~12:00	地域医療をまもる住民活動講演プレゼンテーション
20	12月4日	水	11:00~12:00	医療環境勤務改善セミナー・医師事務作業補助者研修会報告
21	12月24日	火	13:00~13:30	ECCU2019学会報告
22	1月8日	水	10:00~11:00	論文作成について
23	1月15日	水	11:00~11:30	論文作成について
24	1月22日	水	11:20~12:10	社会保障改革の展望とこれからの医療・介護研修報告
25	1月29日	水	10:00~11:00	看護師の特定行為研修への取り組みについて
26	2月5日	水	10:00~11:00	中四国地域医療フォーラムのプレゼンテーション
27	2月12日	水	10:00~11:00	統計;多変量解析
28	2月19日	水	10:00~11:00	地域推薦枠医学生の卒然・卒後教育研修報告
29	2月26日	水	10:00~11:00	地域医療構想
30	3月4日	水	10:00~11:00	医療費と保険制度
31	3月11日	水	10:00~11:00	論文作成について
32	3月18日	水	10:00~11:00	質的研究と量的研究
33	3月25日	水	10:00~11:00	地域の感染症対策

6 地域医療支援コーディネータへの支援

島根県地域医療支援コーディネータは島根大学医学部修士課程「地域医療支援コーディネータ」養成コースを修了し、島根県知事から認定書を交付された医療従事者である。

講座は、コーディネータが大学・島根県及び関係機関と連携しながら医師不足地域への医師定着を促進するために行う活動・研究に対し支援を行っている。

1) 地域医療支援コーディネータへの研究支援・学会参加支援

(1) 地域医療を守り育てる住民活動全国シンポジウム2019

- 【テーマ】 新しい時代の地域医療～わたしたちの“わ”を活かそう～
- 【日 時】 令和元年11月30日（土）・12月1日（日）
- 【場 所】 東京グリーンパレス
- 【参加者】 吉岡 みち子（地域医療支援学講座 客員研究員）

(2) 医療介護福祉政策研究フォーラム 2020年新春座談会

- 【テーマ】 社会保障改革の展望とこれからの医療・介護
- 【日 時】 令和2年1月17日（金）13：30～17：00
- 【場 所】 イイノホール
- 【参加者】 吉岡 みち子（地域医療支援学講座 客員研究員）

(3) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科、地域医療学分野/離島へき地医療人育成センター 鹿児島大学医学部、全国地域医療教育協議会主催 第12回全国シンポジウム

- 【テーマ】 地域推薦枠医学生の卒前・卒後教育をどうするか？
～地域枠制度がもたらすもの～
- 【日 時】 令和2年2月14日（金）13：00～16：40
- 【場 所】 一橋大学一橋講堂
- 【参加者】 吉岡 みち子（地域医療支援学講座 客員研究員）

7 ホームページ・広報誌等による情報発信

1) ホームページ

今年度はセミナー告知等の「お知らせ」を30回、開催報告等の「実施記録」を13回更新した。また地域医療実習募集PR・実習参加学生の感想の掲載や地域医療交流サロンに関するお知らせ等の更新も行っている。今後も継続して適宜的確な情報発信に努めたい。

※令和2年1月末現在



2) Facebook

今年度は当講座facebookを58回更新し、平成31年3月末には478名であったフォロワーが516名に増加した。

※令和2年1月末現在





3) instagram

令和元年度から instagram のアカウントを開設し、広報を始めた。現在のフォロワー数は38名であり、今後も多くの人に見てもらえるよう工夫した投稿を継続していきたい。



4) 地域医療支援学レター（年4回発行）

今年度もニュースレター「We love ちいき」を年4回発行し、紙ベースでのPR活動も行っている。島根大学地域枠等推薦入学ならびに奨学金受給の全学生・県内保健所・医療機関・全国の大学の地域医療関連講座等に配布している。

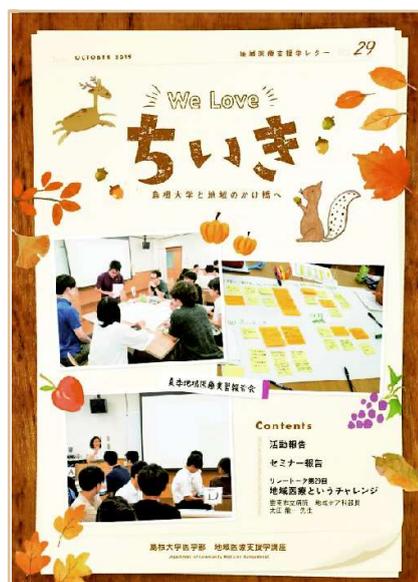
支援学レターVol.27



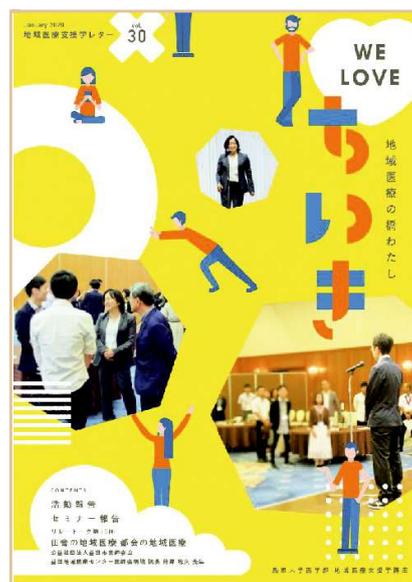
支援学レターVol.28



支援学レターVol.29



支援学レターVol.30



8 総合診療専門医育成ネットワークの取り組み

1) 各医療機関間のネットワークづくり

(1) 総合診療専門医育成ネットワーク世話人会及び意見交換会等の開催

- ・世話人会議 令和元年7月21日(日) 令和2年2月11日(火・祝)
- ・世話人会議(メール会議)10回
 - 7月 総合診療専門医合同説明会について
 - 8月～12月 総合診療専門医プログラムについて
 - 1月～3月 次年度の取り組みについて

2) 総合診療専門医育成のためのプログラム作成・指導體制の支援

(1) 家庭医療専門医プログラム(Ver2.0)…10プログラム

令和元年度現在18名の専攻医が後期研修中である。

- ・島根大学病院総合医・家庭医養成プログラム(ver.2.0)
- ・島根県立中央病院地域医療・家庭医療プログラム(ver.2.0)
- ・出雲市民病院・出雲家庭医療学センター後期研修プログラム(ver.2.0)
- ・雲南市立病院総合医・家庭医教育プログラム(ver.2.0)
- ・大田市立病院総合診療医・家庭医育成プログラム(ver.2.0)
- ・家庭医療・地域包括ケア 仁寿・川本あいあいプログラム(ver.2.0)
- ・浜田市地域包括ケア家庭医療専門医コース(ver.2.0)
- ・津和野共存病院総合診療医・家庭医育成プログラム(ver.2.0)
- ・県境を含む中山間地域で育む総合医研修プログラム(ver.2.0)
- ・島根県済生会江津総合病院総合診療専門プログラム(ver.2.0)

(2) 総合診療専門医研修プログラム…9プログラム

- ・松江生協病院総合診療専門医研修プログラム
- ・島根大学病院総合診療専門医コース
- ・島根県立中央病院総合診療専門医研修プログラム
- ・出雲市民病院・出雲家庭医療学センター総合診療専門医研修プログラム
- ・雲南市立病院総合診療専門医研修プログラム
- ・総合診療専門医研修 仁寿・川本あいあいプログラム
- ・島根県済生会江津総合病院総合診療専門プログラム
- ・浜田市地域包括ケア総合診療専門医コース

・津和野共存病院総合診療専門研修プログラム

(3) 日本プライマリ・ケア連合学会指導医取得への働きかけ

奥出雲町立病院、出雲市総合医療センター、安来市立病院

3) 総合診療医ブラッシュアップ講習会

■第1回

【日 時】 令和元年7月21日（日）10：00～16：30

【場 所】 講義棟1階 国際交流ラウンジ

【講 師】 島根大学医学部内科学講座内科学第四 教授 田邊 一明 先生

山口大学医学部附属病院総合診療部 准教授 齊藤 裕之 先生

【参加者】 30名（うち学生7名）

【内 容】 第1部講演会は、「高血圧治療ガイドライン2019」をテーマとして、田邊一明先生に JSH2014 や AHA/ACC2017 との違いを含めた最新の治療と高血圧管理の向上に向けた取り組み、今後の展望についてお話し頂いた。第2部講演会は、「総合診療医の診療アプローチ」と題して、齊藤裕之先生の経験された症例をもとに、患者を総合的に診る専門性とアプローチについてお話し頂いた。参加された医学生や先生方から多数の質問があった。

■第2回

【日 時】 令和2年2月11日（火・祝）10：00～12：00

【場 所】 講義棟1階 国際交流ラウンジ

【講 師】 社会医療法人清風会 岡山家庭医療センター長 松下 明 先生

【参加者】 35名（うち学生7名）

【内 容】 「総合診療 up to date と総合診療専門医及びそのサブスペシャリティの最新情報」というテーマでお話を頂いた。日本プライマリ・ケア連合学会設立の背景や総合診療専門医育成のための取り組み・役割、2020年度から本学会が導入する「新・家庭医療専門医制度」等についても詳しくお聞かせいただいた。

新制度は、充実した指導体制と体系的な教育機会を担保し、確実に高いレベルの専門能力が修得できるように制度設計されているのが特徴であると感じた。

参加された先生方は、現在検討が進められている最新の情報に触れる事ができ、大変関心も高く、多くの質問を寄せられた。

総合診療医の研修

研修紹介

1年間のあゆみ

学 業

卒業生へのインタビュー

4) 総合診療医等の研修

(1) 総合診療スキルアップセミナー

NPO日本医療教育プログラム推進機構が主催する「総合診療スキルアップセミナー」への参加

今年度実績 なし

(2) 総合診療専攻医の集い

■第1回

【日 時】 令和元年6月8日(土) 13:00~18:00

【場 所】 みらい棟4階 ギャラクシー

【内 容】 出雲市民病院の上村祐介先生の進行のもと、指導医・専攻医・初期研修医が混ざる4グループに分かれ、「ポートフォリオ作成についてのミニレクチャーとグループディスカッション」「専攻医による青年の主張と題した3分間のプレゼンテーションとレスポンスカードによるコメント」「全員参加ディスカッションのクリニカルジャズ」「研修プラン&総合診療専門の魅力についてのグループワーク」が行われた。

今年新たに専攻医になられた3名の先生はもちろんのこと、先輩専攻医や初期研修の先生にとっても、今後に向けて大きな成長をもたらすブラッシュアップの機会になった。

■第2回

【日 時】 令和元年11月23日(土) 10:25~19:00

【場 所】 みらい棟4階 ギャラクシー

【内 容】 出雲市民病院の高橋賢史先生の進行のもと、「①総合診療に必要なリハビリテーション医療の知識を理解する。②専攻医がポートフォリオを1本完成する。③指導医にとって教育FDの機会となる。」の3つアウトカム目標をあげ開催した。

午前は「総合診療×リハビリテーション医療」のレクチャー、ランチョンレクチャーは「HANS直伝! 医学教育学の基礎知識」が行われた。午後からは専攻医の先生が作成途中のポートフォリオを2クールにわたり、指導医の先生方から指導を受ける形式で、「ポートフォリオブートキャンプ」が行われた。専攻医と指導医の熱いディスカッションが重ねられてポートフォリオが作成され、双方にとって貴重なブラッシュアップの機会になった。

5) 医学生・研修医等を対象とした地域医療研修等の受入体制の整備

(1) ワークショップ

■第1回

【日 時】 令和元年6月29日(土) 14:00~17:00

【場 所】 みらい棟2階 共通カンファレンスI

【講 師】 大田総合医育成センター 木島 庸貴 先生

【内 容】 EBMにおける基本的な流れを理解するために、提示された事例を通して、4つのステップ（疑問の定式化、情報収集、情報の批判的吟味、情報の患者適応）に分けて、学習が進められた。PICOの作成やPCを活用し様々な情報源にあたる等、ペアで話し合い、グループでディスカッションし理解を深めていく方法がとられた。データベースの具体的な活用方法等実践的であり、物事を批判的に吟味する思考を学べた有意義なワークショップであった。

■第2回

【日 時】 令和元年11月10日（日）10：00～12：00

【場 所】 みらい棟2階 共通カンファレンス I

【講 師】 雲南市立病院 笠 芳紀 先生 坂口 公太 先生

【内 容】 雲南市立病院の笠 芳紀先生、坂口公太先生を講師に「発熱患者は外国人!? ～感染症原則から輸入感染症」をテーマに輸入感染症に対する初期対応のポイントをレクチャー頂いた。

内容は、「1. 感染症の原則～三角形～」 「2. 病歴聴取のポイント」 「3. 臨床へ生かす～アプリ～」の3本柱で組み立てられ、問題となる輸入感染症での症例検討や診断を絞り込むために参考となるアプリ等をご紹介頂いた。

和やかな雰囲気の中で進められ、学生からの質問も多数あり、これからの臨床に活かせる充実したワークショップとなった。

(2) 学生への学会等参加支援

・第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会参加

【日 時】 令和元年5月18日（土）、19日（日）

【内 容】 学生6名がポスター発表および総合診療医・地域包括ケアについて意見交換・情報収集を行った。

【演 題】 総合診療医への進路選択についての意識調査

学生自らが立案実施したアンケートを実施し、総合医選択の壁となる要因を明らかにした。

・第56回日本リハビリテーション医学会学術集会参加

【日 時】 令和元年6月15日（土）、16日（日）

【内 容】 学生1名参加。地域での総合診療医・プライマリ・ケアに必要な予防活動・リハビリテーションを賦活する具体的な取り組みなどについて情報収集を行った。

・第20回日本病院総合診療医学会学術総会参加

【日 時】 令和2年2月21日（金）、22日（土）

【内 容】 学生7名が高齢者医療、総合診療等に関する情報収集およびポスター発表を行った。



6) 医療機関・医師会・行政等と連携した総合診療医についての普及啓発

(1) レジナビでの普及啓発

- ・しまね研修ナビ 令和元年6月7日(金) 出雲市
- ・東京レジナビ 令和元年6月23日(日) 千葉市
- ・大阪レジナビ 令和元年7月7日(日) 大阪市
- ・しまね研修ナビ 令和2年2月14日(金) 出雲市

(2) 学会等での普及啓発

第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
令和元年5月17日(金)、18日(土)

(3) 総合診療専門医プログラム説明会の開催

■第1回

【日 時】 令和元年7月21日(日) 13:30~16:30

【場 所】 講義棟1階 国際交流ラウンジ

【講 演】 総合診療総論

【講 師】 山口大学医学部附属病院 総合診療部 准教授 齊藤 裕之 先生

【参加者】 29名(うち学生7名)

【内 容】 第1部の講演会は齊藤裕之先生に「総合診療総論」のテーマで、症例をもとにお話し頂いた。第2部は、総合診療専門医育成ネットワークの7つの病院のプログラムをポスター展示し、各病院の担当者によって詳細が説明された。参加した初期研修医・医学生も興味深く聴講し、質問・意見交換がなされた。

■第2回

【日 時】 令和2年2月11日(火・祝) 13:30~16:30

【場 所】 講義棟1階 国際交流ラウンジ

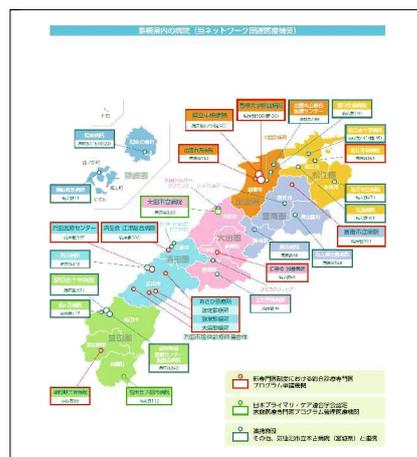
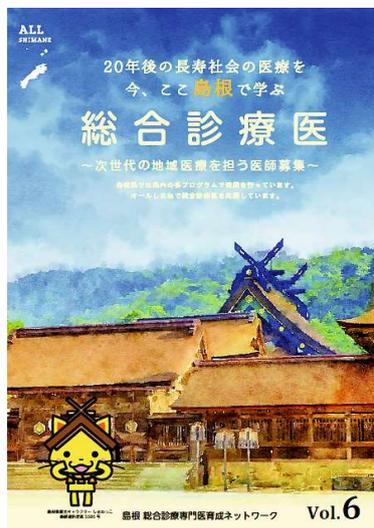
【講 師】 浜田市国保診療所連合体医師 上野 伸行 先生

【参加者】 32名(うち学生6名)

【内 容】 第1部の講演会は上野伸行先生に「総合診療医師として働き始めて印象に残る症例とやりがい」というテーマでお話し頂いた。先生ご自身が経験された症例を提示され、疾患だけではなく、患者さんの社会的背景等を含め、総合的に診ることの重要性をお伝え頂いた。

第2部は、総合診療専門医育成ネットワークの8つの病院のプログラムをポスター展示し、各病院の担当者によって、その詳細が説明された。各病院のプログラムは、それぞれ特徴があり、充実した研修が出来るよう企画されている。参加した初期研修医・医学生は興味深く聴講し、担当者への質問や意見交換が活発になされた。

(4) 島根総合診療専門医育成プログラムパンフレットVol. 6によるPR活動



7) 大学と連携した取り組み

(1) 総合医セミナー（年4回）

(2) 大学院コース等の支援

博士課程：地域医療・地域包括ケア指導者育成コース

修士課程：地域包括ケア人材養成コース（医療経営重点）

その他：①島根大学病院総合診療専門医コース

②地域包括ケア人材育成コース（インテンシブ）

(3) 卒後臨床研修センター主催 早朝セミナー（毎週水曜日7：30～8：15）

9 ワークライフバランス

1) 教育

(1) 男女共同参画講義（キャリア教育）

臨床実習前の医学科4年生対象にした男女共同参画講義（キャリア教育）を島根県医師会と共に、主催している。

【日 時】 令和2年2月27日（木）9：40～15：45

【場 所】 臨床大講堂

【対 象】 島根大学医学部4年生ならびに島根県医師会会員

【主 催】 島根大学医学部地域医療支援学講座 島根県医師会

【共 催】 日本医師会 島根大学男女共同参画推進室 島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

〈グループワーク〉

広島大学医学部附属教育センター 教授 蓮沼 直子 先生

〈キャリアモデル講演〉

島根大学医学部 消化器内科 助教 沖本 英子 先生

腎臓内科 科長・講師 伊藤 孝史 先生

器官病理学 講師 荒木 亜寿香 先生

〈島根大学男女共同参画の取り組み〉

島根大学学長特別補佐（男女共同参画担当） 河野 美江 先生

〈島根県「えんネット」の取り組み〉

地域医療支援学講座 教授 佐野 千晶

〈医師会講演〉

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療人材育成講座 教授 片岡 仁美 先生

「ダイバーシティ2.0世代の医師のキャリアを考える」

(2) 医師生活密着型実習

医師密着型実習とは、島根でがんばる医師に同行して実習を行い、自分の将来像を探すことを目的にした実習である。

協力女性医師の所属

- ・ 出雲市総合医療センター
- ・ 飯南病院
- ・ 浜田国保診療所連合体
- ・ 島根大学医学部附属病院 など

(3) 地域とともに課題を見つめ、キャリアをデザインする

しまねガールズ・サイエンスプロジェクト

島根大学男女共同参画推進室が進めるJST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」高大連携事業に参画している。

(4) セミナーの開催

■ワークライフバランスセミナー

【日 時】 令和元年11月8日（金）18：00～19：30

【場 所】 みらい棟2階 共通カンファレンス I

【講 師】 秋田大学大学院医学系研究科 衛生学・公衆衛生学講座 教授 野村 恭子 先生

【対 象】 学生、医療関係者

【主 催】 島根大学医学部地域医療支援学講座

【概 要】 島根県での診療経験があり島根を愛してやまないという野村恭子先生をお迎えし、講演を頂いた。医師の勤務実態等環境調査の結果から、女性医師の継続就労を阻む要因を提示頂いた。そこには、未だ性別役割分業が根強く浸透しており、その結果起こる孤独や孤立に対し、メンター制度・各種相談窓口を紹介頂いた。

また、ハラスメントに対する取組みを含め組織の意識改革が重要であり、特に組織のリーダーとなる人は無意識バイアスに対する理解が必要であることを学んだ。そして、支援される側のポテンシャルを向上させる取組み「①問題を早い時期から教える支援 ②多様性を育むグローバルな視点 ③自己研鑽の機会を与える」について具体的に教示頂いた。

■ワークライフバランス講演会

【日 時】 令和元年12月17日（火）講演 17：30～19：00 意見交換会 19：00～20：00

【場 所】 みらい棟4階 ギャラクシー

【講 師】 慶応義塾大学総合政策学部 教授 島津 明人 先生

【対 象】 学生、医療関係者

【主 催】 島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室
島根大学医学部地域医療支援学講座

2) 就労支援

(1) 相談窓口

平成26年8月から働き方に不安を抱える方の窓口（えんネット）を設置し、出産・育児後の女性医師等が安心して職場復帰や、現在の働き方に悩みを抱える方のために個々に応じた復職への相談も受け付けている。復職支援プログラム作成や復職に向けたシミュレーション教育等を支援して、専門に応じた対応が必要な場合は、支援担当員として協力いただく専門科の先生に相談を受けることも可能としている。

令和元年度相談件数：15件



相談窓口事業の相談内容

- ① 県内に赴任した際の研修機会の確保
- ② 離職後の段階的なスキルアップについて
- ③ 異動先の院内保育所等 福利厚生 の状況
- ④ 身体的不調、精神的不調
- ⑤ ライフイベントに関連した働き方
- ⑥ ライフイベントと奨学金返還免除期間

(2) 復職サポート

病院を紹介し、復職のために必要なサポートを行った。具体的には、復職に協力してくれる病院へ条件や待遇についての交渉を行った。また、医師への図書やDVD、スキルアップセンターの利用（シミュレーション研修）等を促し、勤務の準備の支援を行い、勤務が開始された後は定期的な連絡をとり、アフターフォローを行った。

復職実績 2件

(3) 女性医師と医学部学生のえんネット交流会

女性医師の働き方、女性医師同士の横のつながりを持つために開催した。女性医師らと学生とで議論が深まった。

■第1回

【日 時】 令和元年7月5日（金）18：00～19：00

【場 所】 みらい棟2階 共通カンファレンスI

【参加者】 敬称略 順不同

佐野 千晶 （地域医療支援学講座 教授）

木村 かおり（法医学講座 講師）

真子 絢子 （外科学講座 医科医員）

梶谷 茉衣 （医科研修医）

長野 奈津子（医科研修医）

学生3名

【概 要】 交流会は同じ部屋の傍らに託児コーナーを設け、アットホームな雰囲気の中で開催された。最初に「医師の働き方改革に関する検討会」が示した、労働時間短縮に向けたとりまとめ資料のミニレクチャーがあり、議論が交わされた。女性医師は妊娠・出産・育児などのライフイベントと医師としてのキャリア形成の時期が重なる。参加者からは、自分自身がどのようにバックアップ制度を活用しキャリアを積んできたのか語られ、様々な助言と共に情報交換がなされた。

また、今回初めて男子学生の参加があり、将来同僚として一緒に働く女性医師の問題を身近に考える場になったようにも思われる。

えんネット交流会



■第2回

【日 時】 令和元年12月16日（月） 18：00～19：00

【場 所】 みらい棟2階 共通カンファレンス I

【参加者】 敬称略 順不同

佐野 千晶 （地域医療支援学講座 教授）

荒木 亜寿香（病理学講座器官病理学 講師）

木村 かおり（法医学講座 講師）

小川 典子 （解剖学講座 助教）

堀田 優希江（耳鼻咽喉科学講座 助教）

学生4名

【概 要】 会場はサンタクロースや雪だるまをディスプレイし、クリスマスソングを流して、託児の7人の子供達も楽しめるよう雰囲気を演出した。

話題は核家族での子育てと仕事の両立が中心であった。女性医師は出産・育児の為のキャリアの中断を余儀なくされる。女性医師が育児をしながら働ける環境作りは、職場や所属学会で改善されつつある。しかし、子育ては子どもの発達段階にあわせ、大人の事情だけでなく部活や入試等子供の事情も絡んでくる。ファシリテーターが身近な家族の協力を得ながらも、公的にどのような声を上げ改善に向けて取り組んできたのか情報交換がなされた。

学生達もファシリテーターの声掛けや説明を聞きながら、未来を少し描けたのではないだろうか。

(4) 令和元年度島根県医師事務作業補助者研修会

【日 時】 令和元年11月30日（土） 11：00～17：00

【場 所】 附属病院ゼブラ棟

【参加者】 73名

【講 師】 浜松医科大学附属病院 医療福祉支援センター 特任教授 小林 利彦 先生

【内 容】 指導者・リーダー向けセミナー：講演

【研修会】 講演、活動報告（松江生協病院、島根大学医学部附属病院、出雲市民リハビリテーション病院）、情報交換（2回ローテーション）、講評

3) 研究

学生のキャリア選択についての研究

研究代表者：佐野 千晶

医学生のキャリア認識が、どういった生物学的因子、社会的因子、経済的因子、環境因子、教育機会因子と関連しているのかについてキャリア・アンカー理論を応用し、研究している。また、他学部との共同研究を開始し、医学生のキャリア選択について検討している。

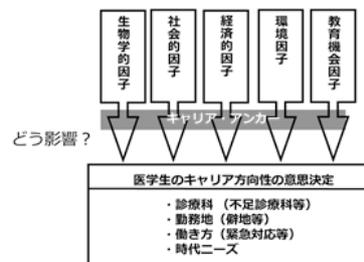


図1. 本研究の問い：医学生のキャリア認識

4) 広報

(1) えんネットマガジンの発行

特集：島根県西部でがんばる医師たち

益田赤十字病院 医師6名にインタビュー取材

3,500部 発送



(2) えんネットホームページの更新（随時）



<https://www.en-net.jp>

5) 託児付セミナー支援

- 総合診療専攻医の集い
令和元年6月8日（土） 13：00～18：00
- えんネット交流会
令和元年7月5日（金） 18：00～19：00
- 総合診療医ブラッシュアップ講習会
令和元年7月21日（日） 10：00～12：00

- 総合診療専門医プログラム説明会
令和元年7月21日（日） 13：30～17：05
- 第3回婦人科がん内視鏡出雲セミナー
令和元年8月24日（土） 13：00～18：30
- 日本産科婦人科学会 島根県支部学術集会
令和元年9月8日（日） 13：00～18：00
- しまね地域医療の会
令和元年9月21日（土） 13：30～19：00
- 精神科医療セミナー
令和元年11月2日（土） 13：00～17：00
- 島根県母と子のメンタルヘルスケア研修会
令和元年11月17日（日） 9：00～12：50
- 総合診療専攻医の集い
令和元年11月23日（土） 10：00～19：00
- 第31回PCキューブ
令和元年11月24日（日） 8：30～17：30
- 島根産科婦人科学会学術集会
令和元年12月8日（日） 9：30～16：30
- えんネット交流会
令和元年12月16日（月） 18：00～19：00
- しまね地域医療の会
令和2年2月1日（土） 15：00～18：00
- 令和元年度第2回総合診療医ブラッシュアップ講習会
令和2年2月11日（火・祝） 10：00～12：00
- 令和元年度第2回総合診療専門医プログラム説明会
令和2年2月11日（火・祝） 13：30～16：30
- 精神科症例検討会
令和2年2月15日（土） 14：00～15：30

6) セミナー等共催

- ワークライフバランス講演会
【日 時】 令和元年12月17日（火） 17：30～19：00
【場 所】 みらい棟4階 ギャラクシー
【主 催】 島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

業績

【論文】

1. Haruaki Tomioka, Yutaka Tatano, Toshiaki Shimizu and Chiaki Sano : Clinical and Basic Studies on Therapeutic Efficacy of Herbal Medicines against Mycobacterial Infections. *Medicines* 2019 Jun 19 ; 6(2). pii : E67. doi : 10.3390/medicines6020067.
2. 佐野千晶, 谷口栄作 : 発表に役立つ医療情報の活用の工夫. *JOHNS* 2019, 35(10) : 1505-1509.

【学会発表】

1. 多田納豊, 加藤芳徳, 望月 涼, 五明田朋伸, 石川智世, 佐野千晶, 山田高也, 富岡治明, 八木秀樹 : *Mycobacterium avium complex* 結合性短鎖可変部抗体 (scFv) の作成. (ポスター) 第92回日本細菌学会総会, 平成31年4月23日, 札幌
2. 島田直英, 布野慶人, 佐野千晶, 谷口栄作 : 総合診療医への進路選択についての意識調査. (学生セッション・ポスター) 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 令和元年5月18日, 京都
3. 多田納豊, 佐野千晶, 磯部 威, 富岡治明 : シンポジウム9 : *In vivo* 研究の視点から見た抗酸菌感染症 : *In vivo* 手法を用いた MAC に対する免疫応答解析. 第94回日本結核病学会総会, 令和元年6月8日, 大分
4. 谷口栄作, 布野慶人, 宅野真由美, 佐野千晶 : 島根県民のメタボリック症候群に関する生活習慣の状況. 第78回日本公衆衛生学会総会, 令和元年10月23日, 高知
5. 城 有美, 佐野千晶, 鈴宮淳司 : 好中球減少時の血流感染における口腔粘膜障害と口腔ケアについての検討. 第89回日本感染症学会西日本地方会学術集会 (第67回日本化学療法学会西日本支部総会 第62回日本感染症中日本地方会学術集会 合同学会) 令和元年11月7日, 浜松
6. 城 有美, 佐野千晶 : 病院職員のインフルエンザ予防を考える - アンケート調査より -. 第57回日本医療・病院管理学会, 令和元年11月3日, 新潟
7. 西村信弘, 馬庭恭平, 石原慎之, 森山英彦, 多田納豊, 直良浩司, 佐野千晶 : ESBL 産生大腸菌の遺伝子型・POT 型とキノロン耐性との関連性. 日本薬学会第140年会令和2年3月, 京都
8. Yoshihito Funo, Chiaki Sano, Hiroyuki Taniura, Takaki Hashimoto, Masataka Gunshin, Eisaku Taniguchi, Koji Sakaida : Current Status and Challenges of AHA Courses Provided by the Japan ACLS Association. 2019 Cardiac Arrest Survival Summit, 2019 Dec.10-12, Seattle

【研究会発表】

1. 布野慶人, 宅野真由美, 谷口栄作, 佐野千晶: 島根県における生活習慣の状況について～特定健診から見た～, 第60回島根県保健福祉環境研究発表会, 令和元年7月9日, 松江
2. 布野慶人: 地域医療関係講座の今後と課題, 第10回中四国地域医療フォーラム プレ集会, 令和2年2月7日, 岡山
3. 佐野千晶: 島根の地域枠等医師支援の取り組み 第10回中四国地域医療フォーラム, 令和2年2月8日, 岡山

【講演・報告等】

1. 佐野千晶: 特別講演「島根の地域医療を守るための取り組み～講座の医学教育を中心に～」, 平成30年度日本耳鼻咽喉科学会島根県地方部会総会および学術講演会, 平成31年4月21日, 松江・松江テルサ(会長 川内 秀之)
2. 佐野千晶: 島根大学医学部地域医療支援学講座 取り組み報告
令和元年度第1回 しまね地域医療の会, 令和元年9月21日, 出雲・島根県立中央病院(会長 山口 修平)
3. 佐野千晶: 教育セミナー6「医療従事者のためのワクチンガイドラインを再考する」, 島根感染対策セミナー 第2回学術集会, 令和元年9月29日, 出雲・ビッグハート出雲(会長 磯部 威)
4. 佐野千晶: 講演「あなたの町の地域医療」地域医療を守り育てる住民活動 in おおち, 令和元年11月23日, 邑南町・いこいの村しまね(主催 公立邑智病院を支援する会)
5. 佐野千晶: 島根大学医学部地域医療支援学講座 取り組み報告, 令和元年度第2回 しまね地域医療の会, 令和2年2月1日, 出雲・出雲医師会館(会長 山口 修平)
6. 佐野千晶: 薬剤耐性(AMR)対策研修会「薬剤耐性 AMR の現状と対応」「島根県院内感染制御ネットワークについて」令和2年1月27日, 出雲・出雲医師会館(主催 島根県出雲保健所)

【その他】

1. 佐野千晶: 「研究・医学教育への夢」, 第9回島根大学耳鼻咽喉科学教室同門会, 令和元年7月14日, 出雲・武志山荘
2. 佐野千晶, 布野慶人, 宅野真由美, 吉岡みち子, 谷口栄作: 「特定健診データからみた島根県における脳心血管病リスクファクターの解析」, 島根大学医学部 6月 研究常設ポスター展示, 発表: 令和元年6月24日
3. 布野慶人: DMAT 高速旅客機対応訓練: 令和元年11月7日, 七類港



4. 布野慶人：AHA BLS ヘルスプロバイダーコースインストラクター参加。令和元年9月21日，11月9日，11月24日，島根大学医学部看護学科棟
5. 佐野千晶：全国医学部長病院長会議（AJMC）地域枠制度についての意見交換会（Bブロック）。令和2年2月15日，東京

【学会参加・座長・視察等】

- | | | |
|--|----|---------|
| 1. 第120回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会（佐野） | 大阪 | 令和元年5月 |
| 2. 第94回日本結核病学会総会 座長（佐野） | 大分 | 令和元年6月 |
| 3. 第27回島根県国保地域医療学会（佐野，宅野） | 松江 | 令和元年10月 |
| 4. 医療勤務環境改善セミナー（宅野） | 出雲 | 令和元年11月 |
| 5. 令和元年度島根県医師事務作業補助者研修会（宅野） | 出雲 | 令和元年11月 |
| 6. 看護師の特定行為研修シンポジウム（宅野） | 出雲 | 令和2年1月 |
| 7. 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科，地域医療学分野／離島へき地医療人育成センター他主催 第12回全国シンポジウム（宅野） | 東京 | 令和2年 |
| 8. 第78回日本公衆衛生学会総会（布野） | 高知 | 令和元年10月 |



写真で見る1年間

4月 新入生説明会



4月 ランチョンセミナー



4月 地域医療セミナー



5月 ランチョンセミナー



写真で見る1年間



5月 地域医療セミナー



6月 専攻医のつどい



6月 総合診療ワークショップ



6月 ランチョンセミナー



地域医療セミナー

専攻医のつどい

総合診療ワークショップ

ランチョンセミナー

写真で見る1年間



7月 ブラッシュアップ講習会・総合診療専攻医プログラム説明会



7月 えんネット交流会



8月 夏季地域医療実習報告会



9月 地域医療セミナー



写真で見る1年間

9月 ランチョンセミナー



9月 地域医療・感染症セミナー



9月 全学年会



9月 講座配属



学生生活支援センター

学生紹介

学生生活のあゆみ

学生

写真で見る1年間



10月 地域医療セミナー



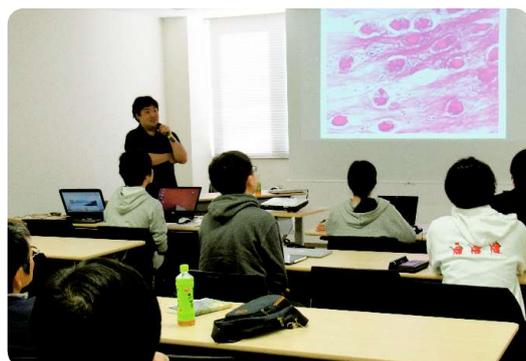
10月 ランチョンセミナー



11月 ワークライフバランスセミナー



11月 総合診療ワークショップ

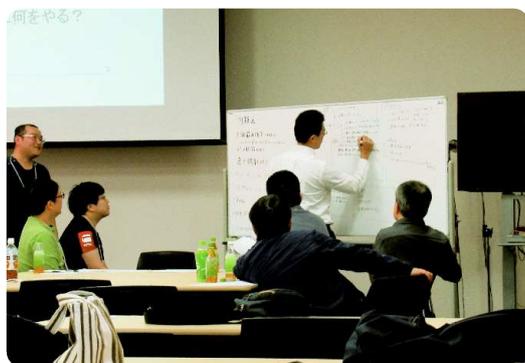


写真で見る1年間

11月 ランチョンセミナー



11月 専攻医のつどい



12月 えんネット交流会



12月 地域医療セミナー



理事長挨拶

専攻医紹介

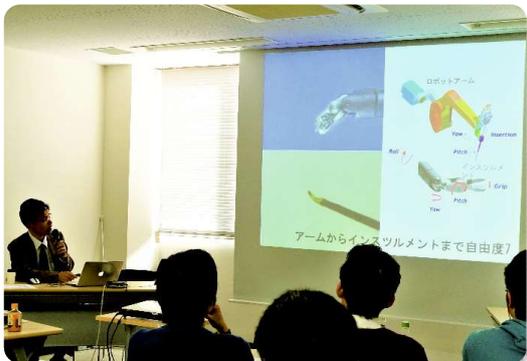
1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間



12月 ランチョンセミナー



1月 ランチョンセミナー



1月 地域医療セミナー



1月 地域医療・感染症セミナー



写真で見る1年間

2月 ランチョンセミナー



2月 ブラッシュアップ講習会・総合診療専攻医プログラム説明会



2月 男女共同参画講義



総合診療専攻医プログラム説明会

講師紹介

1年間のあゆみ

卒業

写真で見る1年間

おわりに

地域医療支援学講座は、島根県の寄付講座として平成22年の4月に設置され、令和2年3月で10年の節目を迎えることができました。これもひとえに様々な取り組みを共に行ってきた学内関係者をはじめ、島根県・市町村・医療機関・医療を守り育てる住民の皆様・島根地域医療支援センター皆様のおかげと感謝しております。

今年度は教授の交代もあり、初代教授の谷口栄作先生（現島根県健康福祉部医療統括官）が退任され、佐野千晶准教授が教授に就任されました。また宅野真由美特任助教を迎え、新体制Team SanoとしてTake offいたしました。春季・夏季地域医療実習、ランチョンセミナー、ビデオセミナー、地域医療セミナー、学年会、男女共同参画、総合診療専門医育成等、今まで当講座が行ってきた業務を踏襲しつつ、新しい地域医療支援学講座Colorを模索した1年間でもありました。今後も講座全体のブラッシュアップを図り、日々の教育に努めてまいります。

地域医療は医師不足の継続、超高齢化社会への対策等、様々な問題が山積みですが、そうした厳しい状況の中でも地域医療マインドを持った志の高い学生や総合診療専門医をこれからも育成していきたいと思えます。学内および学外の関係者の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和2年3月1日

地域医療支援学講座

助教 布野 慶人





ANNUAL REPORT

FACULTY OF MEDICINE SHIMANE UNIVERSITY
COMMUNITY MEDICINE MANAGEMENT



国立大学法人
島根大学医学部地域医療支援学講座
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1
TEL(0853)20-2558 FAX(0853)20-2563
career@med.shimane-u.ac.jp